

HTML on Word V3.0 ユーザーズマニュアル



索引

- [Ver.2.1 のマニュアルはこちら](#)
- [Ver.2.0 のマニュアルはこちら](#)
- [Ver.1.2 のマニュアルはこちら](#)

ヒント

本製品の Web マニュアルは、Microsoft Word で編集して、『HTML on Word』で HTML に変換しました。

PDF のマニュアルは、同じ Word 文書から「[瞬簡 PDF 統合版](#)」に付属する『Antenna House PDF Driver』で PDF 出力しました。

はじめに

「HTML on Word」は、Microsoft Word（以下、Word）で編集・保存した docx 形式のファイルをシンプルで編集しやすい HTML に変換するツールです。使い慣れた Word で作成した文書から簡単に Web ページを作ることができます。

Word には文書校閲機能、見出しスタイルなどのスタイル設定、自動アウトライン番号設定、高度な作図機能、表作成機能、ハイパーリンクの簡単作成など文書を編集する上で便利で強力な編集機能が備わっています。そこで、Word を使えば品質が高い文書を高い生産性で作成できます。「HTML on Word」を使えば Word で作成した文書を簡単に HTML に変換できるので、優れた内容の Web ページを効率的に作れるようになります。

本マニュアルは「HTML on Word」の機能について説明するとともに、Word を HTML 作成ツールとして、上手に活用する方法について説明しています。

本マニュアルの構成は次のとおりです。

「第 1 章 製品の概要」では本製品の機能概要など、本製品を利用する前に理解していただきたいことについて説明します。

「第 2 章 インストールとライセンスの設定」では、製品のインストール・アンインストール、ライセンスについて説明します。

「第 3 章 コマンドライン版の機能と利用方法」では Word 文書から HTML に変換するコマンドライン版の使用方法を説明します。

「第 4 章 アドインの利用方法」では Word のリボンに組み込むアドインの使い方を説明します。

「第 5 章 変換仕様」では、Word で設定したスタイルを HTML のタグに変換する仕様や、目次の変換仕様、分割時の仕様などを説明します。

「第 6 章 Word 編集ガイドライン」では、Web ページを上手に作成するために Word の編集機能をどのように使うと良いかについてのガイドラインを提供します。

表記法

本マニュアルでは HTML の要素について次のような表記をしています。

- ① HTML の要素型名を<>で囲って、<>タグのように表記します。
- ② 変換仕様では、出力される開始タグのみを表記し、終了タグが出力される場合も、終了タグを省略します。
- ③ 見出しリンクタグ (<h1>, <h2>, <h3>, <h4>, <h5>, <h6>) を総称して、<h>タグと表記します。<h>タグは HTML の要素型名ではないので注意してください。

お問い合わせ先

本製品の機能・操作についての質問は、電子メールで次までお問い合わせください。

xhw@antenna.co.jp

目次

HTML on Word V3.0 ユーザーズマニュアル.....	1
はじめに 2	
表記法.....	3
お問い合わせ先	3
第1章 製品の概要.....	8
1.1 コマンドライン版の機能.....	8
1.2 アドインの機能.....	9
第2章 インストールとライセンスの設定.....	10
2.1 インストールの手順	10
2.1.1 インストールオプション	17
2.2 ライセンス.....	18
2.2.1 評価版.....	18
2.2.2 正式ライセンス	19
2.3 アンインストール	20
第3章 コマンドライン版の機能と利用方法.....	21
3.1 コマンドライン起動時のメッセージ.....	21
3.2 変換オプション	22
3.3 コマンドライン操作例.....	27
3.4 設定ファイル.....	28
3.4.1 デフォルト設定ファイル	28
3.4.2 変換オプション設定ファイル.....	32
3.4.3 設定ファイルの形式.....	33
3.5 アドインメニューで指定できるパラメータ	34
3.6 エラーメッセージ	35
第4章 アドインの利用方法.....	36
4.1 アドインの登録と解除.....	36
4.1.1 アドイン登録	36
4.1.2 アドイン登録解除.....	36

4.2	「アンテナハウス」タブ	37
4.3	HTML へ変換ボタン	38
4.4	HTML へ変換のメニュー操作	39
4.4.1	変換結果を表示するアプリケーションの指定	39
4.4.2	変換先フォルダーを変更	43
4.4.3	「指定した CSS を用いる」	44
4.4.4	「ブロックタグで改行する」	45
4.4.5	ヘルプ	46
4.5	エラーメッセージ	47
第 5 章	変換仕様	48
5.1	変換元文書	48
5.2	変換先 HTML のバージョン	48
5.3	ルート・ヘッダ・メタ情報	48
5.4	ブロック要素	50
5.4.1	見出しスタイルとアウトラインレベル	51
5.4.2	見出しのアウトライン番号	51
5.4.3	箇条書き	51
5.4.4	段落番号と順序付きリスト	51
5.4.5	段落スタイル名 (オプション)	52
5.5	図および図の配置	52
5.5.1	図の出力フォルダーとファイル名	52
5.5.2	画像と図形の形式	52
5.5.3	図の配置設定	53
5.5.4	文字列の折り返しを指定した図を出力する位置	54
5.5.5	図の代替テキスト	54
5.6	数式	55
5.7	表	55
5.7.1	表の見出し行	55
5.7.2	表の見出し列	56
5.7.3	セルの配置	57

5.8	インライン要素	58
5.8.1	フォントグループ	58
5.8.2	リンクと相互参照	60
5.9	段落テキストの揃え	61
5.10	テキストボックス	61
5.11	脚注	62
5.12	文末脚注	65
5.13	目次出力	68
5.13.1	分割出力時の目次箇所	69
5.14	索引	70
5.15	分割出力	71
5.16	ページ移動リンク出力	72
5.16.1	出力される HTML 要素	73
第 6 章	Word 編集ガイドライン	74
6.1	コンテンツとスタイル分離原則について	74
6.1.1	Web ページのコンテンツとレイアウト分離とは？	74
6.1.2	Word はコンテンツとレイアウトが混然一体	74
6.1.3	本製品は変換時に Word のレイアウト指定を原則無視	74
6.1.4	Word 文書を作成するときに避けて欲しいこと	75
6.2	HTML の見出しリンクタグの出力	76
6.2.1	Word の見出しスタイルを設定する	76
6.2.2	表題を設定する	77
6.2.3	Word の段落アウトラインレベルを設定する	77
6.3	箇条書きと段落番号	79
6.3.1	箇条書き	79
6.3.2	段落番号	80
6.4	図のレイアウト	81
6.4.1	行内配置	81
6.4.2	文字列の折り返し	82
6.5	Word の空行と空き	84

6.6	図形・画像のグループ化.....	84
6.7	参照リンクの設定方法.....	85
6.7.1	リンク.....	85
6.7.2	相互参照.....	85
6.7.3	リンクの参照先.....	86
6.8	表.....	87
6.9	文字の修飾・フォントの扱い.....	87
6.10	索引の作成.....	88
索引	91	
奥付け	95	

第1章 製品の概要

本製品は①docx ファイルから HTML ファイルに変換処理を行うコマンドライン版プログラム (Word2HTML) と、②Word のリボンに組み込まれるアドインから構成されます。

コマンドライン版の変換対象ファイル形式は Microsoft Word (以下、Word) で編集して保存した docx 形式ファイルです。Word の旧文書形式 (拡張子 doc) 文書を変換することはできません。

1.1 コマンドライン版の機能

Word2HTML は docx 形式ファイルを読み込んで HTML 形式に変換するコンバータ (変換エンジン) です。変換エンジンは、アンテナハウスの製品である「[Office Server Document Converter](#)」の技術を使って、独自に開発したものです。Word の「名前を付けて保存」の機能は使用していません。変換エンジンは Windows のコマンドライン版プログラムとして動作します。

コマンドライン版は Windows のコマンドプロンプトから直接操作できます。Word で編集集中の文書を、アドインのメニューから HTML に変換するときは、アドインがコマンドライン版を起動します。

コマンドラインの変換動作を変換オプションのパラメータで指定できます。詳細は、「第3章コマンドライン版の機能と利用方法」を参照してください。アドインからもオプションパラメータの一部を設定できます。

ご注意

コマンドライン版のライセンスはローカル PC で使用するためのものです。サーバーとして使用する PC 上にインストールして、そのサーバーに接続したクライアント PC からネットワークを通じて本製品を使用することは許諾しておりません。サーバー上にインストールして使用することをご希望の場合は、弊社営業グループ (sis@antenna.co.jp) までお問い合わせください。

ご注意

Microsoft OneDrive のフォルダーなど、クラウドサービスと連携しているフォルダー内のファイルの変換、および同フォルダーへの出力には対応しておりません。

1.2 アドインの機能

アドインは、①変換オプションを設定する機能と、②Word で編集中文書の内容を HTML ファイルに変換する機能、③変換結果の HTML ファイルを関連付けられたアプリケーションで表示する機能を、Word のリボンのメニューとして追加します。

上記②の変換処理自体は、アドインのプログラムが Word2HTML を起動して行います。docx ファイルを HTML ファイルに変換した後、ブラウザなどのアプリを起動して HTML ファイルを表示します。

詳細は、「第 4 章 アドインの利用方法」を参照してください。

なお、アドインのメニューは日本語と英語を内蔵しています。Word の言語が日本語のとき、アドインのメニューも日本語になります。Word の言語が英語のとき、アドインのメニューも英語になります。

ご注意

Microsoft OneDrive のフォルダーなど、クラウドサービスと連携しているフォルダー内のファイルの変換、および同フォルダーへの出力には対応していません。

第2章 インストールとライセンスの設定

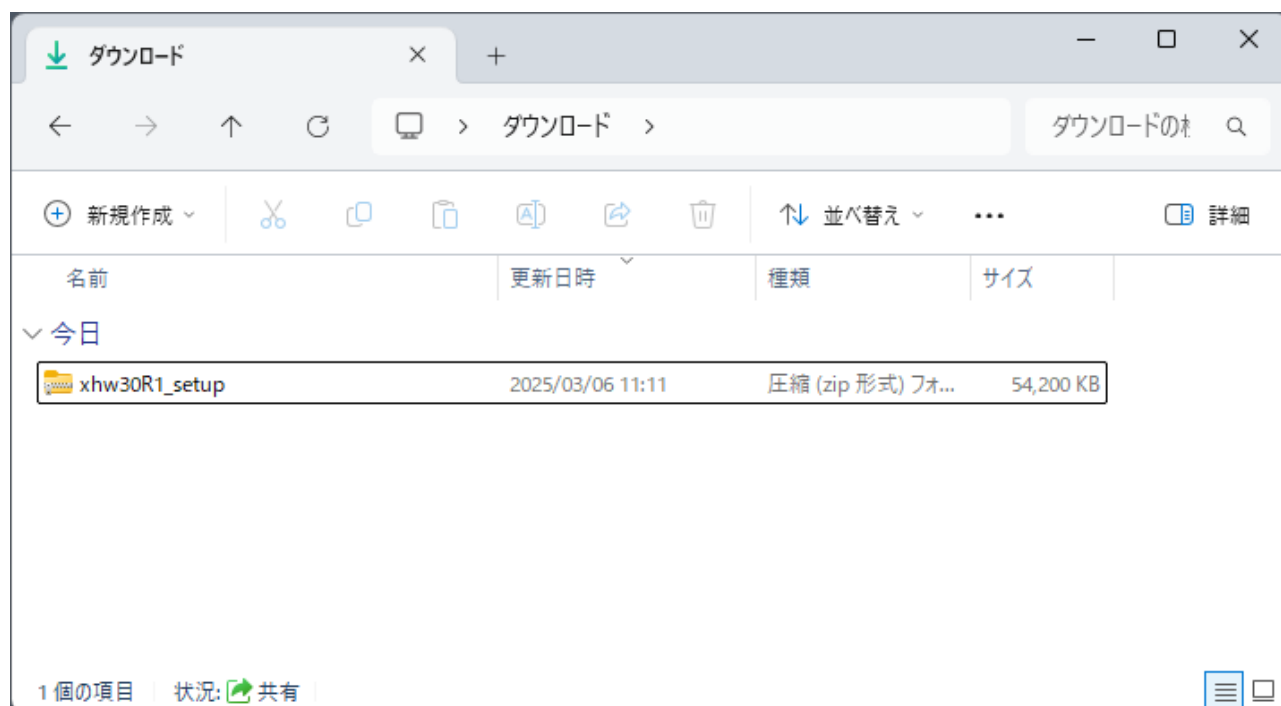
ご注意

V3.0 とそれ以前のバージョンを同一環境にインストールできません。旧バージョン（V2.1 以前）をインストールしている場合、旧バージョンをアンインストールしてから V3.0 をインストールしてください。アンインストールについては 2.3 を参照してください。

2.1 インストールの手順

本製品をお手元の PC にダウンロードすると、ダウンロード先フォルダーに ZIP 形式アーカイブファイル（xhw30x_setup.zip）が保存されます。

※xhw30x_setup.zip の「30x」部分は改訂バージョンにより変わります。

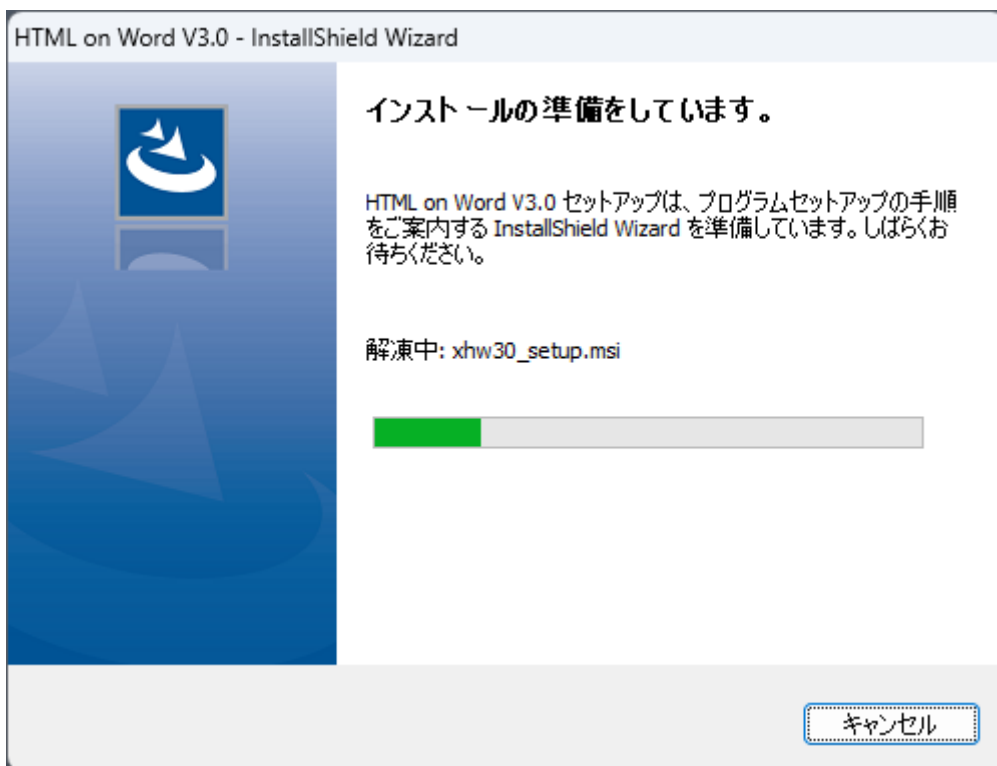


ZIP ファイルからインストールするには、次の手順で操作してください。

ZIP 形式アーカイブファイルを解凍すると、解凍先フォルダーに本製品のインストーラファイル（xhw30x_setup.exe）ができます。

※xhw30x_setup.exe の「30x」部分は改訂バージョンにより変わります。

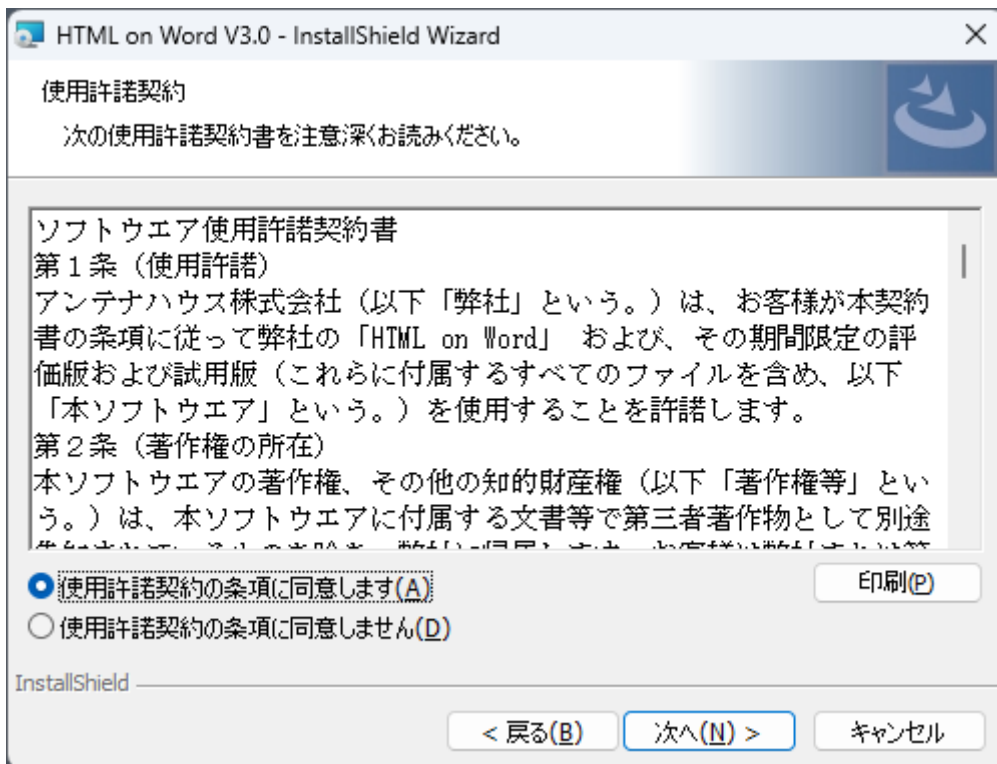
1. xhw30x_setup.exe ファイルをマウスで選択し、ダブルクリックすると、Windows によって「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」という確認ダイアログが表示されますので、「はい」を選択してクリックします。
2. インストールプログラムが起動し、インストール準備が始まります。



3. インストール準備が完了すると、インストール開始を確認するダイアログが表示されますので「次へ」ボタンをクリックします。



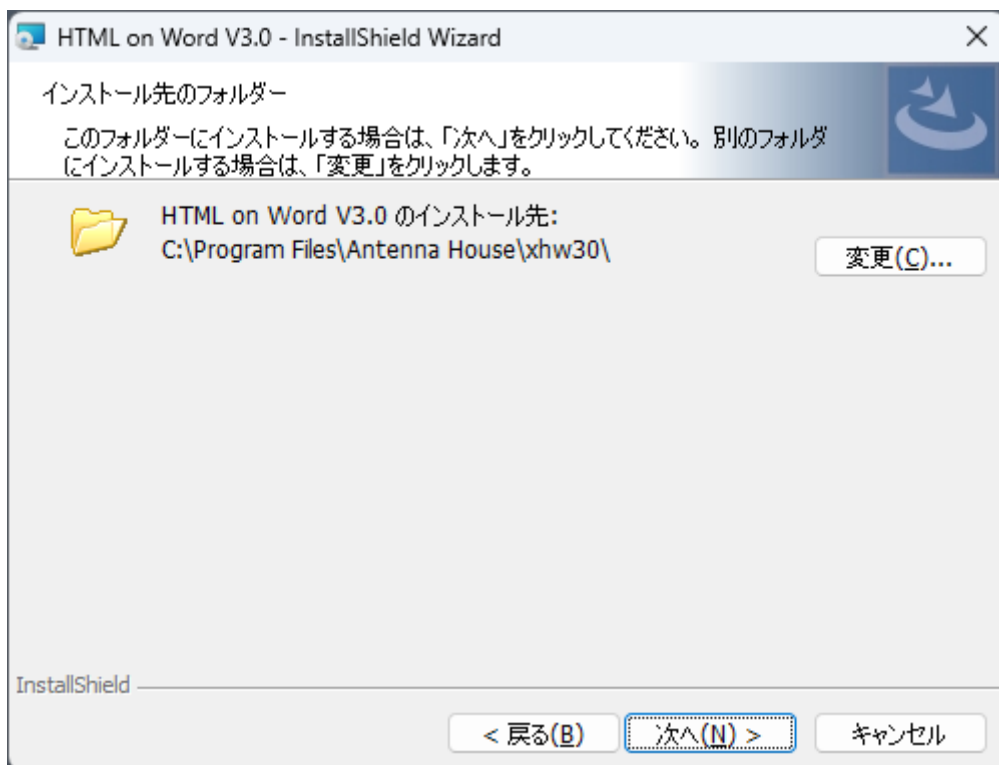
4. 次のダイアログでは本製品の使用許諾契約書が表示されるので、内容をご確認の上、同意される場合は「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



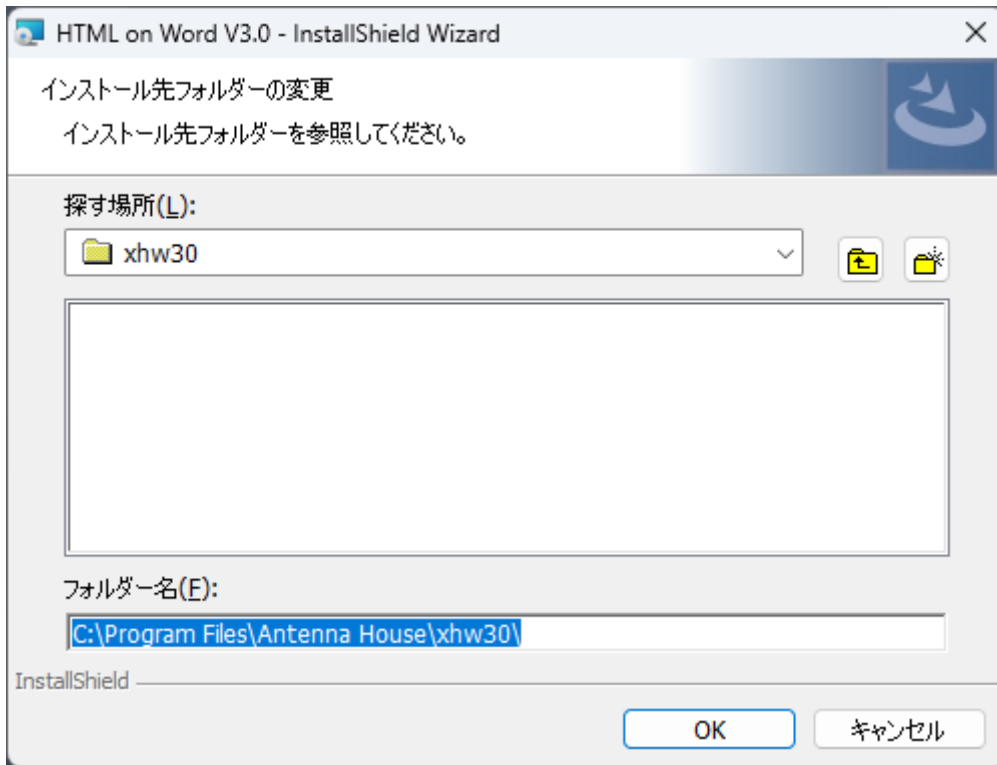
5. 次のダイアログで本製品をインストールするフォルダーを選択します。デフォルトのインストール先は次のフォルダーになります。

C:\Program Files\Antenna House\xhw30\

デフォルトのままであれば、「次へ」ボタンをクリックします。

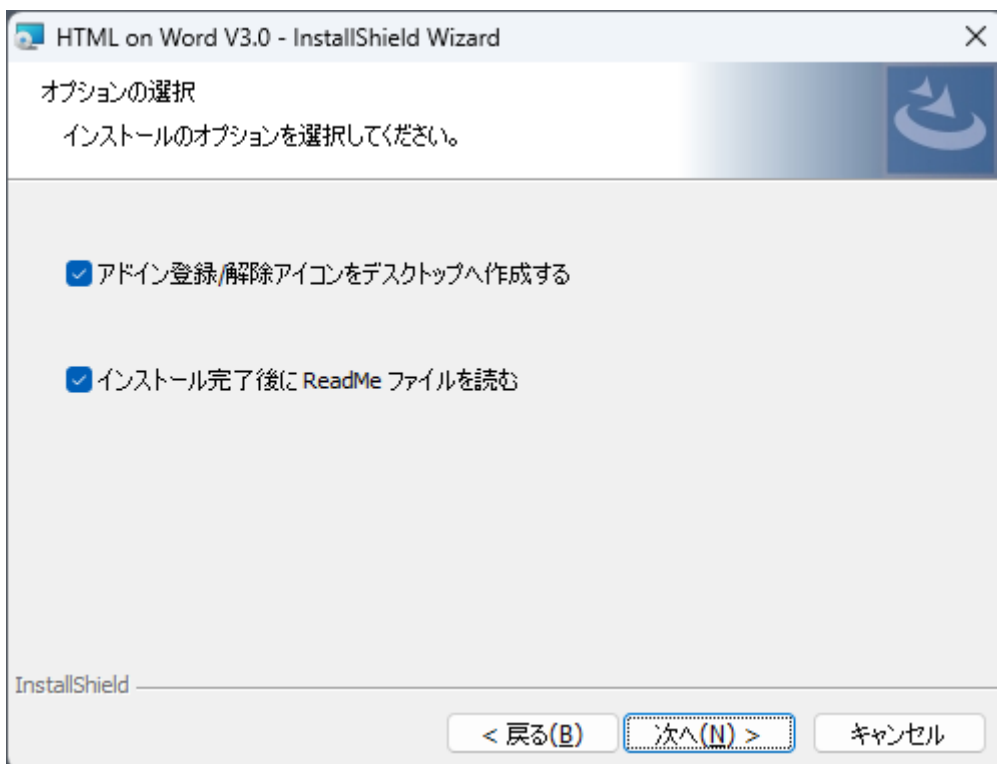


インストール先フォルダーを変更するときは、右の「変更」ボタンをクリックすると表示される「インストール先フォルダーの変更」ダイアログから、インストール先フォルダーを選択してください。

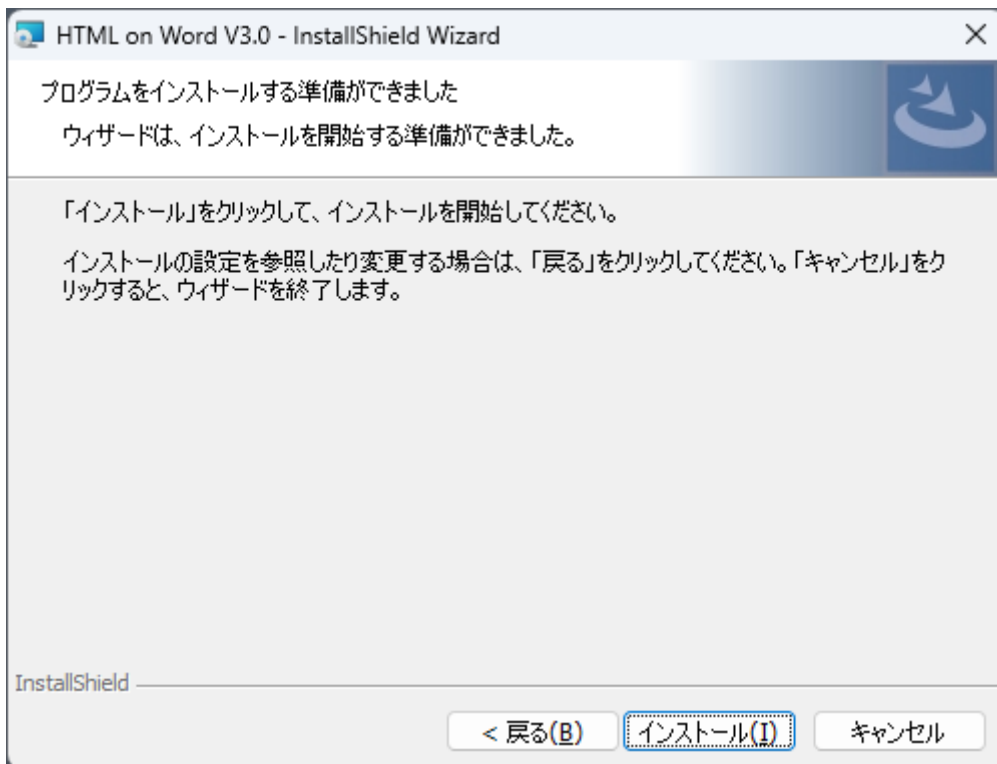


6. 次はインストール完了時のオプションを選択するダイアログです。次のふたつのオプションがあります。オプションについての説明は「2.1.1 インストールオプション」を参照してください。

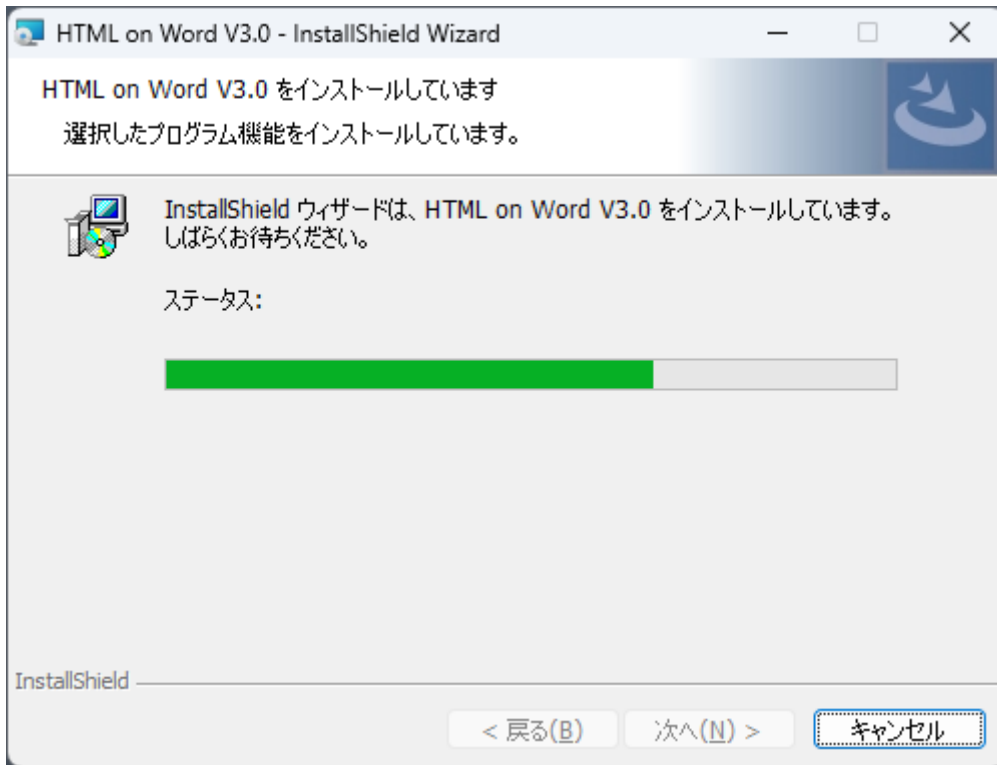
- アドイン登録／解除アイコンをデスクトップへ作成する
- インストール完了後に ReadMe ファイルを読む



7. 「次へ」をクリックすると、インストール開始するかどうかの最終確認ダイアログが表示されるので、「インストール」をクリックするとインストールを開始します。



8. インストール処理が実行されます。



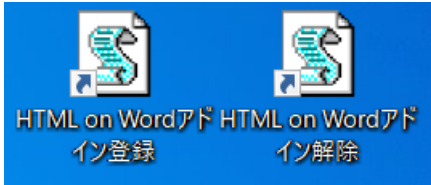
9. インストールが完了すると、次のダイアログが表示されます。「完了」をクリックすると、インストール完了時のオプションが実行されます。



2.1.1 インストールオプション

1. アドイン登録／解除アイコンをデスクトップへ設定する

本オプションのチェックボックスにチェックすると、Microsoft Word のリボンにアドインを登録するプログラムと、そのアドイン登録を解除するプログラムのふたつのアイコンがデスクトップに配置されます。



アドインの登録と登録解除については、「第4章 アドインの利用方法」を参照してください。

2. インストール完了後に、ReadMe ファイルを読む

本オプションのチェックボックスにチェックすると、インストールが完了したとき、インストーラに同梱されている ReadMe.txt ファイルを、メモ帳など拡張子 (.txt) に関連付けられたアプリケーションで画面に表示します。

2.2 ライセンス

「HTML on Word」のライセンスは30日間評価版と正式ライセンスの2種類があります。2種類のライセンスで変換に係る機能の差はありません。ライセンスの種類はライセンスファイルによって切り替えます。

2.2.1 評価版

評価版は本製品の Web ページから入手できます。

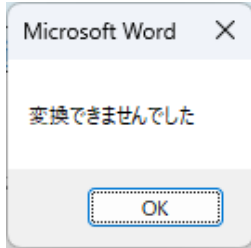
評価版のインストールが完了すると、インストール先のフォルダーに、30日間評価版のライセンスデータを内容とするライセンスファイルが設定されます。

評価版は機能制限がなく、正式版と同じ機能を使えます。但し、評価版の使用期間は30日間に限定されており、インストールしてから30日を過ぎるとコマンドライン版を起動することができなくなります。継続してお使いいただくには、アンテナハウスのオンラインショップで正式版をお求めいただく必要があります。

アンテナハウスのオンラインショップからの購入案内

<https://www.antenna.co.jp/xhw/onlineshop.html>

評価期限を過ぎた場合、次のメッセージが表示されます。

コマンドラインから実行した場合	Evaluation license is expired: [ライセンスファイル名]
アドインから実行した場合	 <p>変換できませんでした。</p>

2.2.2 正式ライセンス

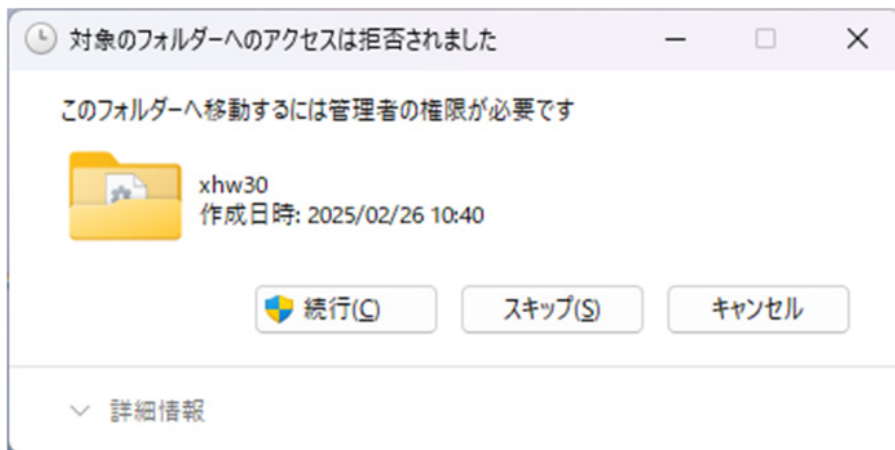
本製品を購入された場合、正式ライセンスデータ（ライセンスファイル）とライセンス証書が提供されます。ライセンスファイル名は「**xhwlic.dat**」です。

正式ライセンスに切り替えるには、ライセンスファイルをコマンドライン版プログラム（Word2HTML.exe）と同じフォルダーにコピーしてください。

コマンドライン版プログラムのインストール先フォルダーのデフォルトは、次のとおりです。

C:\Program Files\Antenna House\xhw30\

このフォルダーへの書き込みには管理者権限が必要なため正式ライセンスファイルをコピーしようとすると次の警告ダイアログが表示されます。



管理者権限をもっていない場合は、管理者にコピーを依頼してください。

2.3 アンインストール

本製品のアンインストールは次のステップで行います。

1. アドインの登録解除

Word にアドインを登録しているときは、最初にアドインを登録解除します。アドインの登録解除については、「4.1.2 アドイン登録解除」を参照してください。

アドインを解除しないでコマンドライン版のアンインストールをすると、アドインを解除するプログラムも削除されてしまい、Word のリボンからアドインを解除できなくなるので注意してください。

2. コマンドライン版のアンインストール

コマンドライン版のアンインストールは Windows の「設定」の「アプリ」>「インストールされているアプリ」画面から行います。

「インストールされているアプリ」画面には、Windows にインストールされているアプリケーションのリストが表示されます。「HTML on Word V3.0」を探して、項目右の「…」をクリックすると図のように「アンインストール」メニューが表示されます。



「アンインストール」をクリックすると、インストーラが起動して、アンインストール処理を行います。

第3章 コマンドライン版の機能と利用方法

コマンドライン版は、Windows のコマンドプロンプトから使用するプログラムです。入力した docx ファイルを HTML ファイルに変換する機能を提供します。

3.1 コマンドライン起動時のメッセージ

Windows のコマンドプロンプトでコマンドライン版を起動すると次のメッセージを表示します。

```
C:\Users\user>word2html
Word2HTML : docx to HTML Converter V3.0 R1 for Windows (x64) (3,0,2025,0327)
Copyright (c) 1999-2025 Antenna House, Inc.
Serial: XHW30 シリアル番号 Maintenance DeadLine: 保守期限

usage: Word2HTML [-clrsettings] [-settings <settings-file>] [-xhtml] [-viewport <content>] [-endl] [-emptyP]
[-nonrefid] [-imgwidth] [-hstrong] [-embedding] [-(x|o)math] [-throughimg] [-pstyle] [-citation]
[-tablestyle] [-textcolor] [-italic n|t|s|m] [-underline n|t|s] [-linethrough n|t|s] [-encoding <encoding>]
[-split 1|2|3] [-tocout] [-pagenavi language]
[-lang language]
[-section 1|2|3|4|5|6]
[-endnoteId]
[-footnote f|t|n]
[-customSep]
[-defstyle] [-spaceindent] [-outputbr] [-fileimages]
<input-file> [<output-file>] [-css css-file [<media>]]* [-js javascript-path]*
[-savesettings <settings-file>] [-savedefault]
```

(1) シリアル番号と保守期限

XHW30 から始まる英数字がシリアル番号です。シリアル番号に続くメッセージの意味は次のとおりです。

Maintenance Deadline:	正式版のとき	保守期限
Trial Deadline:	試用版・評価版のとき	試用期限

(2) 利用方法

「usage: Word2HTML」に続く表示は、コマンドラインの変換オプションです。

3.2 変換オプション

コマンドライン実行時は、Word2HTML に続けて、入力ファイル名（必須）、出力ファイル名および変換オプションを指定します。

変換オプションのパラメータは次の表のとおりです。入力ファイルの指定は必須ですが、それ以外のパラメータは必要な時だけ指定します。パラメータを指定しないときはデフォルト動作となります。

パラメータ	説明
<input-file>	（必須）ファイルパス（ファイルの場所）を含んだ入力ファイル名を指定します。 「<input-file>」の記述は不要で、直接入力ファイル名を記述します。
<output-file>	ファイルパス（ファイルの場所）を含んだ出力ファイル名を指定します。指定しない場合は入力ファイルと同じフォルダーに、入力ファイルと同じファイル名の HTML ファイル（拡張子：.html）で出力されます。 「<output-file>」の記述は不要で、直接出力ファイル名を記述します。
-clrsettings	本パラメータを指定するとデフォルト設定ファイルなどで指定済のオプション設定をクリアします。 ご注意： このパラメータを指定しない場合、デフォルト設定ファイルで指定されている内容が重複して設定されたり、追加設定されるオプションがあるため、重複や追加で設定させない場合は、このパラメータを指定してください。
-settings <settings-file>	<settings-file>にて指定した変換オプション設定ファイルを読み込みます。
-xhtml	デフォルトでは HTML 文法のタグを出力します。-xhtml を指定すると XML 文法のタグを出力します。 また、<section>/<nav>タグはそれぞれ<div class="section-area">/<div class="nav-area">タグで出力します。
-viewport <content>	<head>に次の形式のメタタグを出力します。 <meta name="viewport" content="content に指定した内容">
-endl	ブロックタグの終わりに改行を出力します。

-emptyP	デフォルトでは Word の空の行（改行のみの行）を HTML 出力時に無視します。本オプションを指定すると空行の数だけ空の<p></p>タグを出力します。
-nonrefid	Word では編集を重ねると文書ファイル内に参照されていない ID が docx ファイル内に沢山できてしまいます。本コンバータはデフォルトでは文書ファイル内をスキャンして、内部的に参照されていない ID を HTML 出力時に削除します。本オプションを指定すると参照されていない ID を削除しません。
-imgwidth	イメージの幅を Word 文書に貼り付けたサイズでタグの style 属性に出力します。
-hstrong	見出しスタイルで指定された強調を無視します。
-embedimg	このオプションを指定しないとき（デフォルト）、画像は image フォルダに出力されます（5.5.1 を参照）。 本オプションを指定すると、画像をデータ URL で本体 HTML に埋め込みます。
-(x o)math	Word の数式エディタで編集した数式の出力形式を指定します。次の 4 とおりの出力形式を指定できます。 未指定 : 数式をタグに svg 形式ファイルで出力 -math : 数式をタグに MathML 形式ファイルで出力 -xmath : 数式を MathML 形式マークアップで出力 -omath : 数式を Word 独自の Office Math 形式で出力
-throughimg	Word に挿入した元の画像形式のまま出力します。
-pstyle	Word で指定した段落のスタイル名を class 属性の値に設定して出力します。スタイル名は半角英数字と一部の半角記号以外は、class 属性の値に出力されません。
-citation	Citation フィールドの tag の値を<a>タグの href 属性の値に設定して出力します。
-tablestyle	Word 文書中の表や表のセルに指定されている、背景色や枠線の太さ・色・スタイル（一部のスタイルのみ対応）、表の幅を各 HTML タグの style 属性で出力します。
-textcolor	文字に指定されている色をとして出力します。
-italic n t s m	文字に斜体が指定されているときの出力方法を指定します。 -italic n : 出力しない（デフォルト） -italic t : <i>タグとして出力 -italic s : として出力 -italic m : タグとして出力

	<p>なお、Web ブラウザで表示するフォントに斜体がない場合は、斜体で表示されません。</p>
-underline n t s	<p>文字に下線が指定されているときの出力方法を指定します。</p> <p>-underline n : 出力しない (デフォルト)</p> <p>-underline t : <u>タグとして出力</p> <p>-underline s : として出力</p>
-linethrough n t s	<p>文字に取り消し線が指定されているときの出力方法を指定します。</p> <p>-linethrough n : 出力しない (デフォルト)</p> <p>-linethrough t : タグとして出力</p> <p>-linethrough s : として出力</p>
-encoding <encoding>	<p>HTML ファイルの文字コード (符号化方式) として、Unicode の UTF-8 以外を指定したいとき本パラメータで符号化方式を指定します。</p> <p>-encoding Shift_JIS : シフト JIS で出力 (注 1 参照)</p> <p>-encoding UTF-16 : Unicode の UTF-16 符号化</p> <p>注 1 シフト JIS に定義されている文字の種類は Unicode より少ないため、シフト JIS で扱えない Unicode の文字は&#x 文字番号; (文字番号は 16 進数) で出力されます。なお、JIS X0208 にマイクロソフトが追加した旧機種依存文字 (①、②など) はシフト JIS の文字として扱います。</p>
-split 1 2 3	<p>本パラメータを指定した場合、Word 文書のアウトラインレベルに応じて HTML ファイルを分割して出力します。アウトラインレベルは 1~3 を指定できます。</p>
-tocout	<p>本パラメータを指定した場合、-split パラメータを指定時に Word の目次機能で挿入した目次箇所を、別の HTML ファイル (inc-toc.html) として出力します。</p> <p>inc-toc.html は JavaScript を利用して、分割した HTML ファイルにインクルード (読み込み) できます。inc-toc.html には目次箇所のタグ以外の<head>や<body>などのタグは出力されません。</p> <p>JavaScript を利用した目次箇所のインクルード方法については、下記 Web ページにサンプルを用意していますので、ご参考にしてください。</p> <p>https://www.antenna.co.jp/xhw/sample.html</p> <p>本パラメータを指定しない場合は目次箇所は分割したすべての HTML ファイルの上部に出力されます。</p>

<p>-pagenavi language</p>	<p>本パラメータを指定した場合、-split パラメータを指定時に分割した HTML ファイルの上部（目次箇所がある場合は目次箇所の直後）と下部に、前のページと次のページに移動するリンクを出力します。</p> <p>-pagenavi に続く「language」箇所に「ja」を指定した場合は、日本語で「前へ」「次へ」リンクが出力されます。</p> <p>「language」箇所に「ja」以外を指定した場合、または省略した場合は、英語で「Prev」「Next」リンクが出力されます。</p> <p>前のページまたは次のページが存在しない場合は、各リンクは省略します。</p>
<p>-lang language</p>	<p>本オプションを指定すると、出力する HTML ファイルの<html>タグに出力する言語（lang 属性）を指定できます。-lang に続く「language」箇所に言語コードを指定します。（例. 日本語の場合：ja、英語の場合：en）</p> <p>「language」箇所に「none」を指定した場合は、<html>タグに lang 属性を出力しません。</p> <p>本オプションを指定しない場合や、半角英数字、半角のハイフン以外の値を指定した場合は、Word 文書から推定して「ja」（日本語）または「en」（英語）を出力します。</p> <p>「-xhtml」パラメータを指定した場合は、<html>タグの xml:lang 属性と lang 属性にそれぞれ指定した言語コードを出力します。</p> <p>例. <html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja"></p>
<p>-section 1 2 3 4 5 6</p>	<p>HTML の<section>（または<div class="section-area">）タグを出力するアウトラインレベルを指定できます。-section に続く 1～6 の半角数字（整数）を指定することで、指定したアウトラインレベルまでの<section>を出力します。</p> <p>指定がない、あるいは 1～6 以外を指定した場合は「-section 6」と同等になります。</p> <p>例えばアウトラインレベル 4 以下は<section>タグを出力したくない場合は「-section 3」を指定します。</p>
<p>-endnoteld</p>	<p>Word 文書中に脚注、または文末脚注を挿入する際、脚注／文末脚注の連番の開始番号を「1」以外にした場合に、出力した HTML の脚注／文末脚注文字（<sup>タグ）の番号と、その脚注／文末脚注を指定する「id」の末尾に使用される番号を一致させることができます。</p>
<p>-footnote f t n</p>	<p>Word 文書中に脚注がある場合に、html への出力方法を指定します。</p> <p>-footnote f : 脚注を文章の最後（分割して HTML を出力する場合は最後の HTML ファイル内の文章の最後）に出力し、本文中の参照マーク</p>

	<p>に付与したハイパーリンクから、該当の脚注に移動できるようにします。(デフォルト)</p> <p>脚注は<aside>タグで囲って出力します。</p> <p>「-xhtml」パラメータを指定した場合は、<div>タグで囲って出力します。</p> <p>※「-footnote f」を指定した場合は、文末脚注も同様の出力をします。</p> <p>-footnote t :本文中の参照マークにタグを追加し、「title」属性の値に該当の脚注のテキストを出力し、参照マークのマウスオーバー時にツールチップを表示できます。</p> <p>-footnote n :脚注および脚注の参照マークは出力しません。</p>
-customSep	<p>脚注、および文末脚注を挿入した場合の本文との境界線を指定します。標準では境界線をすべて<hr>タグで出力します。「-customSep」パラメータを指定した場合は、Word上で編集した文字列や表を出力することができます。</p> <p>境界線が含まれる場合は、<hr>タグの代わりにタグで出力されます。</p>
-defstyle	<p>本オプションを指定すると<head>の<style>要素(デフォルト CSS スタイルを指定する要素)を出力しません。</p>
-spaceindent	<p>本オプションを指定すると段落先頭に1文字以上の字下げが指定されているとき、字下げを1文字の全角空白に変換します。</p>
-outputbr	<p>段落を<p>タグで囲む代わりに、段落の終わりに
タグを出力します。「-xhtml」パラメータ指定時は無効です。</p>
-fileimages	<p>画像ファイルを格納するフォルダー名を、“変換先ファイル名.images”とします。詳細は、5.5.1をご参照ください。</p>
-css cssfile [media]	<p>CSS ファイルをリンクします。CSS ファイルは Windows 上のフォルダーに置き、そのパスを指定します。指定した CSS ファイルが存在しないとエラーになります。オプションで media を指定できます。</p> <p><head>に次の形式の link タグを出力します。(media を指定した場合)</p> <pre><link rel="stylesheet" href="xxx.css" media="print"></pre> <p>指定した CSS ファイルは HTML 出力先フォルダーにコピーされます。</p> <p>-css と CSS ファイルの組を複数指定できます。</p> <p>「-xhtml」パラメータを指定した場合は、<meta>タグと<link>タグが出力されます。</p> <pre><meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css" /> <link rel="stylesheet" href="xxx.css" type="text/css" media="print" /></pre>

<p>-js javascript-path</p>	<p><head>に script タグを置き、その src 属性に JavaScript ファイルのパス (URL) を指定します。JavaScript ファイルは指定した場所にコピーされませんので、指定したファイルのパスに JavaScript ファイルを保存してください。</p> <p>指定した JavaScript のパスが存在しなくてもエラーになりません。</p> <p>-js と JavaScript ファイルの組を複数指定できます。</p> <p>「-xhtml」パラメータを指定した場合は、<meta>タグと<script>タグが出力されます。</p> <pre><meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript" /> <script type="text/javascript" src="xxx.js"></script></pre>
<p>-save settings <settings-file></p>	<p>コマンドライン実行時変換オプションパラメータの指定値を<settings-file>にて指定したファイル名で保存します。設定ファイルの詳細は 3.4.2 を参照してください。</p>
<p>-save default</p>	<p>コマンドライン実行時の変換オプションパラメータの指定値をデフォルト設定ファイル (def-settings.xml) に出力します。デフォルト設定ファイルの詳細は 3.4.1 を参照してください。</p>

3.3 コマンドライン操作例

次はコマンドラインで、変換元ファイル名：NewsRelease.docx、変換先ファイル名：NewsRelease.html とし、CSS ファイル：sample-news.css を指定した例です。

```
C:¥work>Word2HTML.exe NewsRelease.docx NewsRelease.html -css sample-news.css
```

変換が正常に実行されると次のメッセージが表示されて、HTML ファイルが作成されます。

```
Converting finished normally.
```

3.4 設定ファイル

変換オプションをあらかじめ設定ファイルに保存しておけば、コマンドラインで変換オプションを指定する代わりに設定ファイルで指定できます。設定ファイルには次の2種類があります。

- ① デフォルト設定ファイル
- ② 変換オプション設定ファイル

3.4.1 デフォルト設定ファイル

デフォルト設定ファイルを使うとデフォルト動作を切り替えることができます。デフォルト設定ファイルのファイル名は、「def-settings.xml」で、ファイルの保存場所は次の2か所のどちらかです。

- ① EXE ファイル (Word2HTML.exe) と同じフォルダー
- ② Roaming フォルダー

デフォルト設定ファイルを EXE ファイルと同じフォルダーに置いた場合、全ユーザー共通のデフォルト値となります。

ヒント

製品インストール時には、EXE ファイルと同じフォルダーにこの設定ファイルは存在しませんので、任意で作成して保存してください。

デフォルト設定ファイルを EXE ファイルと同じフォルダーに保存する場合は、ご利用の Windows の管理者権限が必要です。

ご注意

EXE ファイルと同じフォルダーの設定ファイルはコマンドラインからの実行時のみ有効となります。Word アドインからの変換時は反映されません。

また、この時のコマンドラインからの実行は、直接 EXE ファイルのパスを指定して実行する必要があります。

インストール時に製品のインストール先を変更しなかった場合のパス：

"C:¥Program Files¥Antenna House¥xhw30¥Word2HTML.exe"

デフォルト設定ファイルを Roaming フォルダに置くと、ユーザー毎に異なるデフォルト設定ファイルとなります。Roaming フォルダのデフォルト設定ファイルのパスは、通常、次のとおりです。
C:¥Users¥[ユーザー名]¥AppData¥Roaming¥AntennaHouse¥xhw¥3.0¥def-settings.xml

デフォルト設定ファイルが上記 2 か所の両方にあるときは、EXE ファイルと同じフォルダのデフォルト設定に Roaming フォルダにあるデフォルト設定ファイルの内容が上書き、追加されます。

デフォルト設定ファイルに、ON/OFF タイプの変換オプションの設定があるとき、同じ変換オプションを、アドインまたはコマンドラインのパラメータで指定すると、ON/OFF が反転するので注意してください。

ご注意

EXE ファイルと同じフォルダと Roaming フォルダの両方に設定ファイルがある場合、設定の上書きや追加、重複などが発生するため、どちらか一方に設定ファイルを保存することを推奨します。

変換オプションの「-savedefault」パラメータを指定すると、Roaming フォルダにデフォルト設定ファイル (def-settings.xml) を作成できます。デフォルト設定ファイルは XML 形式なのでテキストエディタで編集できます。

例えば、コマンドラインで次のように指定すると、①ブロックタグの終わりに改行を出力する (-endl)、②下線を<u>タグとして出力する (-underline t) が設定されたデフォルト設定ファイルが作成されます。

```
C:¥>Word2HTML -savedefault -endl -underline t
```

また、次のように指定すると、デフォルト設定ファイルの設定値をすべてクリアして、本プログラム自体のデフォルト設定に戻したデフォルト設定ファイルが作成されます。

```
C:¥>Word2HTML.exe -clrsettings -savedefault
```

ヒント

デフォルト設定を書き換える場合、パラメータの種類によっては指定するたびに ON/OFF が切り替わるものや、設定値が追加されるものがあります。想定しない設定値にならないように、「-clrsettings」パラメータを指定して設定値をクリアにした状態でデフォルト設定の書き換えを行ってください。

例. Word2HTML.exe -clrsettings -endl -css sample.css -savedefault

次は変換オプションパラメータとして「-clrsettings -savedefault」を指定して作成されるデフォルト設定ファイルです。デフォルト値のないパラメータは設定されません。

```
<?xml version="1.0"?>
<word-to-html-settings>
<enable-XHTML enable="false"/>
<viewport content=""/>
<enable-endl enable="false"/>
<enable-empty-paragraph enable="false"/>
<enable-non-reference-id enable="false"/>
<enable-image-width enable="false"/>
<enable-heading-strong enable="true"/>
<enable-embed-image enable="false"/>
<enable-mathml enable="false"/>
<xml-mathml enable="false"/>
<xml-omath enable="false"/>
<through-image enable="false"/>
<enable-pstyle enable="false"/>
<enable-citation enable="false"/>
<text-color enable="false"/>
<output-br enable="false"/>
<style-tag enable="true"/>
<space-indent enable="false"/>
<fil-images enable="false"/>
<italic out="n"/>
<underline out="n"/>
<linethrough out="n"/>
<split val="0"/>
<tocout enable="false"/>
<lang val=""/>
<section val="6"/>
<endnoteld enable="false"/>
<footnote out="f"/>
<customSep enable="false"/>
</word-to-html-settings>
```

3.4.2 変換オプション設定ファイル

変換オプション設定ファイルは、変換オプションのパラメータ値を保存するファイルです。
コマンドライン実行時に、変換オプション設定ファイル名を指定して読み込みます。

同じ設定による変換を繰り返すとき、変換オプションを設定ファイルに保存しておくこと、次回から同一のオプションを指定する代わりに設定ファイルの指定で済みます。

変換オプション設定ファイルのファイル名は任意です。

変換オプション設定ファイルはコマンドライン実行時に、変換オプションの「-savesettings」で指定したファイルとして作成できます。

変換オプション設定ファイルは XML 形式なので、パラメータ設定値をテキストエディタで修正できます。

3.4.3 設定ファイルの形式

設定ファイルはルート要素が「word-to-html-settings」で、変換オプションに設定する項目を子供の要素型名とする XML ファイルです。デフォルト設定ファイルと変換オプション設定ファイルの形式は同じです。各要素型名と変換オプションのパラメータの対応関係は次の表のとおりです。

要素型名	属性	プログラムの デフォルト値	対応する変換オプション パラメータ
word-to-html-settings			
enable-XHTML	enable	false	-xhtml
viewport	content		-viewport
enable-endl	enable	false	-endl
enable-empty-paragraph	enable	false	-emptyP
enable-non-reference-id	enable	false	-nonrefid
enable-image-width	enable	false	-imgwidth
enable-heading-strong	enable	true	-hstrong
enable-embed-image	enable	false	-embedimg
enable-mathml	enable	false	-math
xml-mathml	enable	false	-xmath
xml-omath	enable	false	-omath
through-image	enable	false	-throughimg
enable-pstyle	enable	false	-pstyle
enable-citation	enable	false	-citation
text-color	enable	false	-textcolor
output-br	enable	false	-outputbr
style-tag	enable	true	-defstyle
space-indent	enable	false	-spaceindent
fil-images	enable	false	-fileimages
table-style	enable	なし	-tablestyle
italic	out	n	-italic n t s m
underline	out	n	-underline n t s
linethrough	out	n	-linethrough n t s
encoding	encoding	なし	-encoding
link-css	src	なし	-css css-file
link-js	src	なし	-js javascript-path
split	val	0	-split 1 2 3
tocout	enable	false	-tocout

要素型名	属性	プログラムの デフォルト値	対応する変換オプション パラメータ
pagenavi	pagenavi	なし	-pagenavi language
lang	val		-lang language
section	val	6	-section 1 2 3 4 5 6
endnoteld	enable	false	-endnoteId
footnote	out	f	-footnote f t n
customSep	enable	false	-customSep

3.5 アドインメニューで指定できるパラメータ

アドインのメニューで指定できる変換オプションパラメータは、次のふたつのみです。

- 指定した CSS を用いる
- ブロックタグで改行する

「指定した CSS を用いる」チェックボックスにチェックするのは、コマンドライン版の変換オプション「-css」パラメータ指定に該当します。コマンドライン版では「-css」とファイル名の組を複数指定できますが、アドインで指定できるのはひとつだけです。

「ブロックタグで改行する」チェックボックスにチェックすることは、変換オプションの「-endl」パラメータの指定にあたります。

アドインでは他の変換オプションを指定できないので、必要に応じてデフォルト設定ファイル（3.4.1を参照）を使って指定してください。

3.6 エラーメッセージ

コマンドライン版のエラーメッセージは次のとおりです。

エラーメッセージ	考えられる原因
“Word2HTML”は、内部コマンドまたは外部コマンド、操作可能なプログラムまたはバッチファイルとして認識されていません。	<p>① コマンドライン版が正常にインストールされていない。 (対策) インストールし直す。</p> <p>② コマンドライン版をインストールしたフォルダーへのパスが設定されていない。 (対策) Windows の設定で、環境変数に path にフォルダーへのパスを設定する。</p>
“Cannot Open File” 変換先ファイルパス	<p>① 変換先ファイルが開けない。 (対策) 変換先ファイルがエディタなどで開かれ、編集がロックされた状態となっていることが考えられます。そのときは編集終了してください。 (対策) リンク指定した CSS ファイルが存在しないことも考えられます。</p>
“Input file not found”	① 入力ファイルが見つからない。
“It is not the file format to be converted.”	Microsoft Word から作成した Docx ファイル以外を変換元ファイルに指定した場合などに表示します。
“SVG file for index link not found.”	<p>索引のリンクを示す画像“index-mark.svg”が、プログラムと同じフォルダーの「SVG」フォルダー内にはない状態です。 「SVG」フォルダー内に “index-mark.svg”があるかどうかご確認ください。</p>

第4章 アドインの利用方法

4.1 アドインの登録と解除

4.1.1 アドイン登録

アドインを登録するには、Word を終了した状態で、デスクトップの「HTML on Word」アドイン登録アイコンをダブルクリックします。

インストールの際、デスクトップにアドイン登録アイコンを作成しなかった場合は、次のようにします。

- ① 「HTML on Word」のインストール先フォルダーにコピーされている、アドイン登録用のプログラムを探す。
- ② アドイン登録用プログラムファイル (install.vbs) をダブルクリックします。

4.1.2 アドイン登録解除

アドイン登録を解除するには、Word を終了した状態で、デスクトップの「HTML on Word」アドイン登録解除アイコンをダブルクリックします。

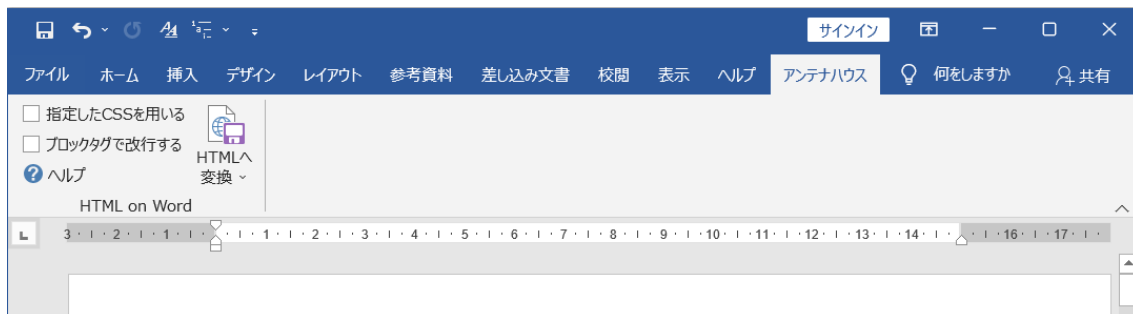
インストールの際、デスクトップにアドイン登録解除アイコンを作成しなかった場合は、次のようにします。

- ① 「HTML on Word」インストール先フォルダーにコピーされているアドイン登録解除用のプログラムを探す。
- ② アドイン登録解除用プログラムファイル (uninstall.vbs) をダブルクリックします。

4.2 「アンテナハウス」タブ

アドインが登録されているとき、Word のリボンに「アンテナハウス」タブができます。このタブの「HTML on Word」グループに次のボタンとチェックボックスがあります。

- 「HTML へ変換」ボタン
- 「指定した CSS を用いる」チェックボックス
- 「ブロックタグで改行する」チェックボックス
- ヘルプボタン



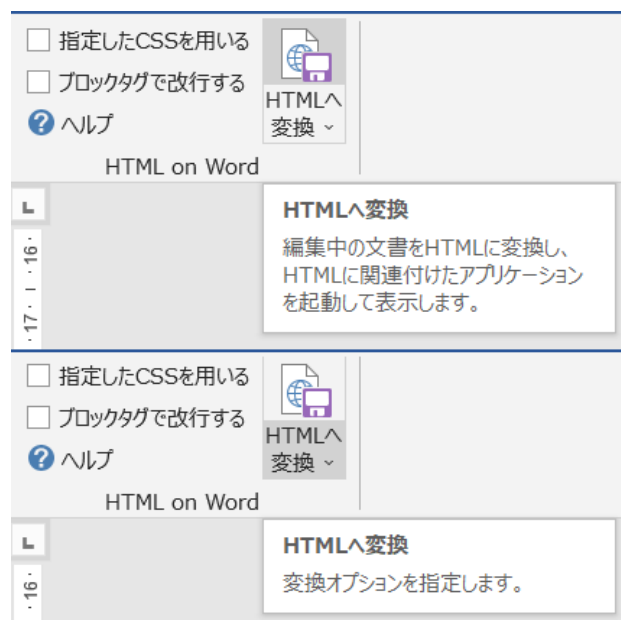
Word で編集中心の文書をこのボタンとチェックボックスを使って HTML ファイルに変換し、変換結果をブラウザやテキストエディタで確認できます。

Windows の設定「時刻と言語」の「言語」タブで「優先する言語」が「日本語」のとき、図のように、Word のタブ名やメニューは日本語になります。このときアドインのタブ名は「アンテナハウス」で、コマンド名やツールチップのメッセージは日本語となります。

Windows の設定「時刻と言語」の「言語」タブで「優先する言語」を「英語」に変更すると、Word のタブ名やメニューが英語になります。このとき、アドインのタブ名は Antenna House となり、コマンド名やツールチップのメッセージも英語となります。

4.3 HTML へ変換ボタン

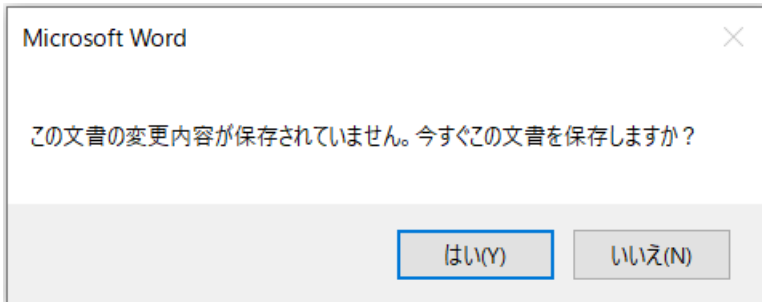
「HTML へ変換」のボタンは、上部が「HTML へ変換」コマンド、下部が「変換オプション」のふたつのコマンドに分かれています。



4.4 HTML へ変換のメニュー操作

「HTML 変換」ボタンの上部をクリックすると「HTML へ変換」コマンドを起動します。「HTML へ変換」の動作は次の順となります。

- ① 編集中の docx 文書が更新されているとき、変換開始前に、変更された文書の保存を促すダイアログを表示します。



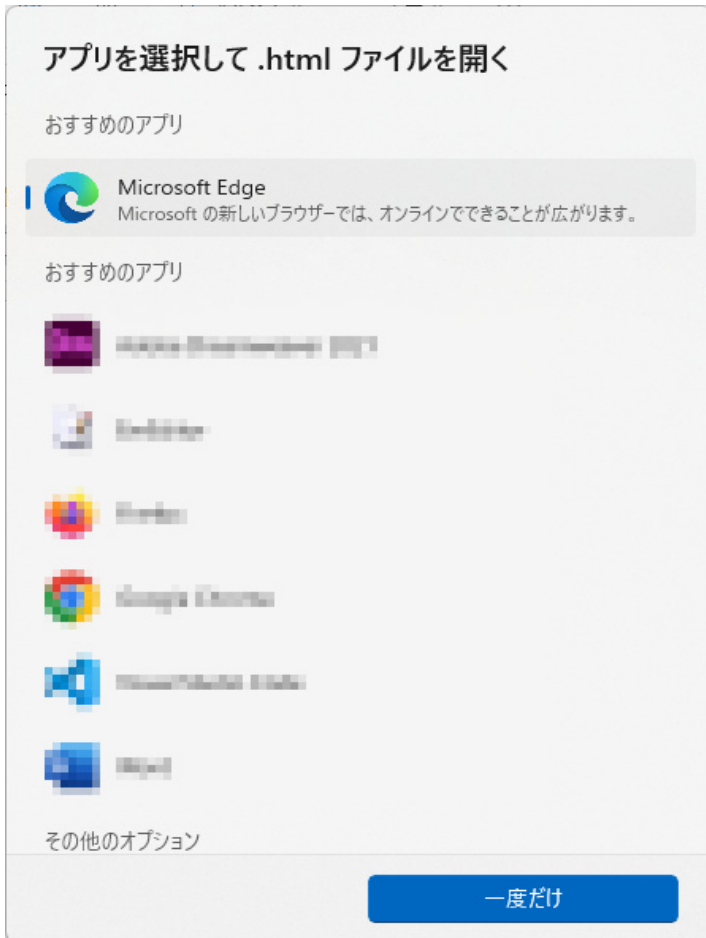
- ② HTML 保存先フォルダーが設定されていないとき、保存先フォルダーを選択するダイアログを表示します。表示されるダイアログは「4.4.2 変換先フォルダーを変更」と同じ内容なので、そちらを参照してください。
- ③ 編集中の docx 文書を HTML 形式に変換します。
※変換処理は、別途、インストールされた Word2HTML コマンドライン版を起動します。コマンドライン版については、「第 3 章 コマンドライン版の機能と利用方法」を参照してください。
- ④ 変換が正常に終了したとき、Windows の機能で拡張子 html に対応付けられているアプリケーションを起動して、変換結果を表示します。

4.4.1 変換結果を表示するアプリケーションの指定

「HTML へ変換」が終了すると、Windows で拡張子 html に対応付けられているアプリケーションで HTML ファイルを表示します。

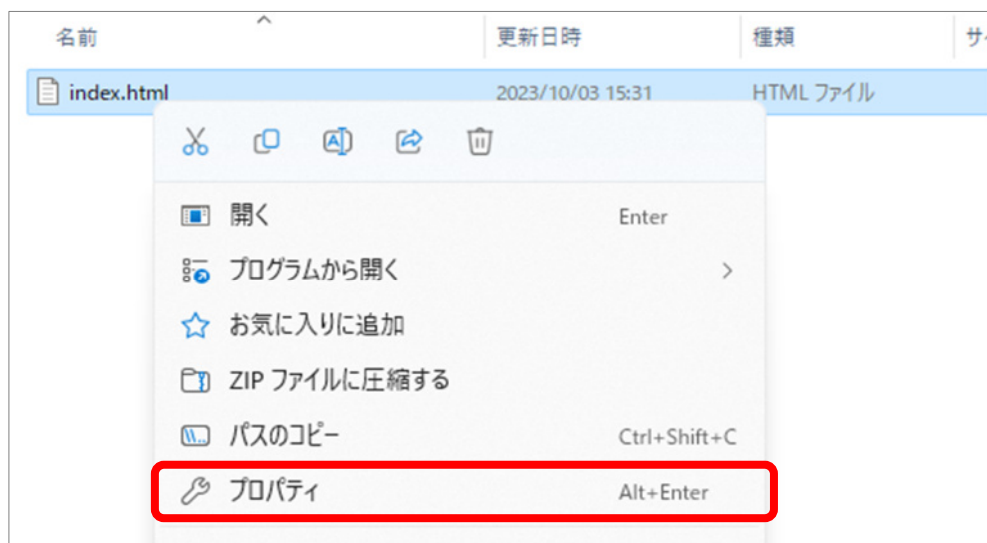
「HTML へ変換」を最初に実行時するとき、Windows で拡張子 html に対応付けられているアプリケーションの中から、ファイルを表示するアプリケーション（ブラウザまたはエディタ）を選択するダイアログが表示されることがあります。

但し、Windows の動作環境によっては、アプリケーション選択ダイアログが表示されないときもあります。このダイアログを表示しているのは Microsoft Windows であり、アドインでは表示・非表示の制御は行っていません。



Windows で拡張子 html に対応付けられているアプリケーションを変更するには、次のようにします。

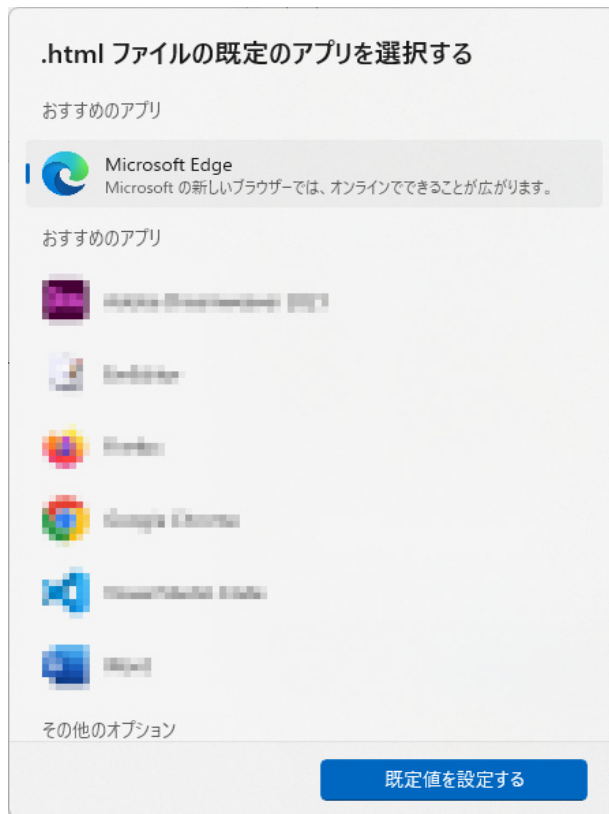
1. エクスプローラで HTML ファイルを選択します。
2. 右クリックメニューからプロパティを選択します。



3. プロパティのダイアログからプログラムの項の「変更」ボタンをクリックします。



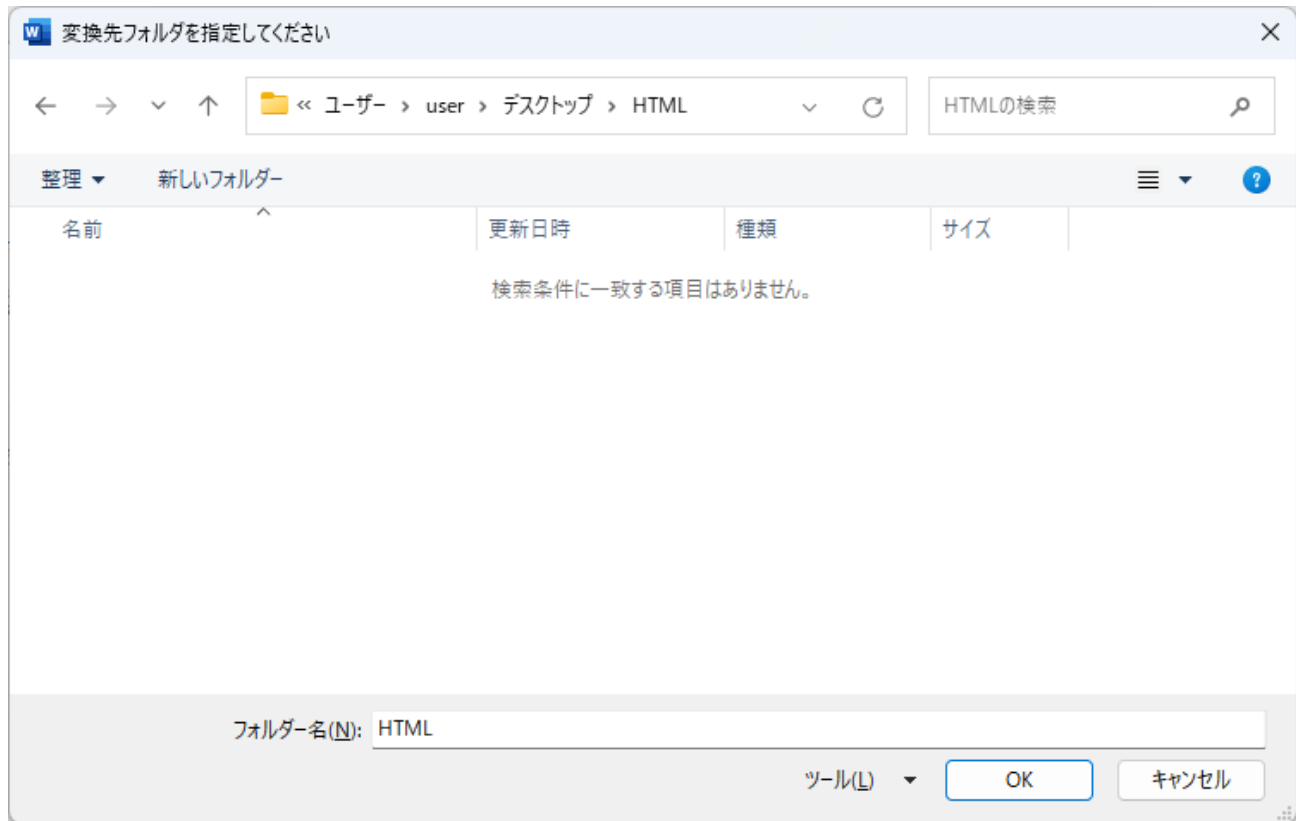
4. 「.html ファイルの既定のアプリを選択する」ダイアログでアプリケーションを選択します。



5. 「規定値を設定する」をクリックして、ダイアログを閉じます。

4.4.2 変換先フォルダーを変更

「HTML へ変換」 ボタンの下部をクリックすると「変換先フォルダーを変更」 コマンドが表示されます。

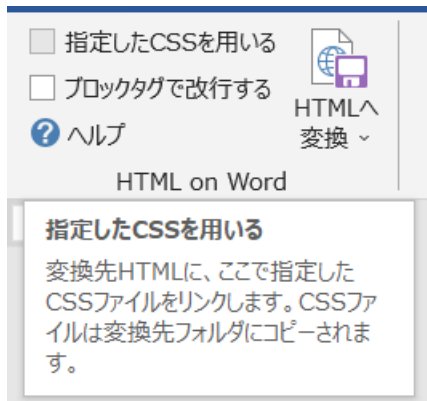


変換結果を出力するフォルダーを選択して、「OK」をクリックします。

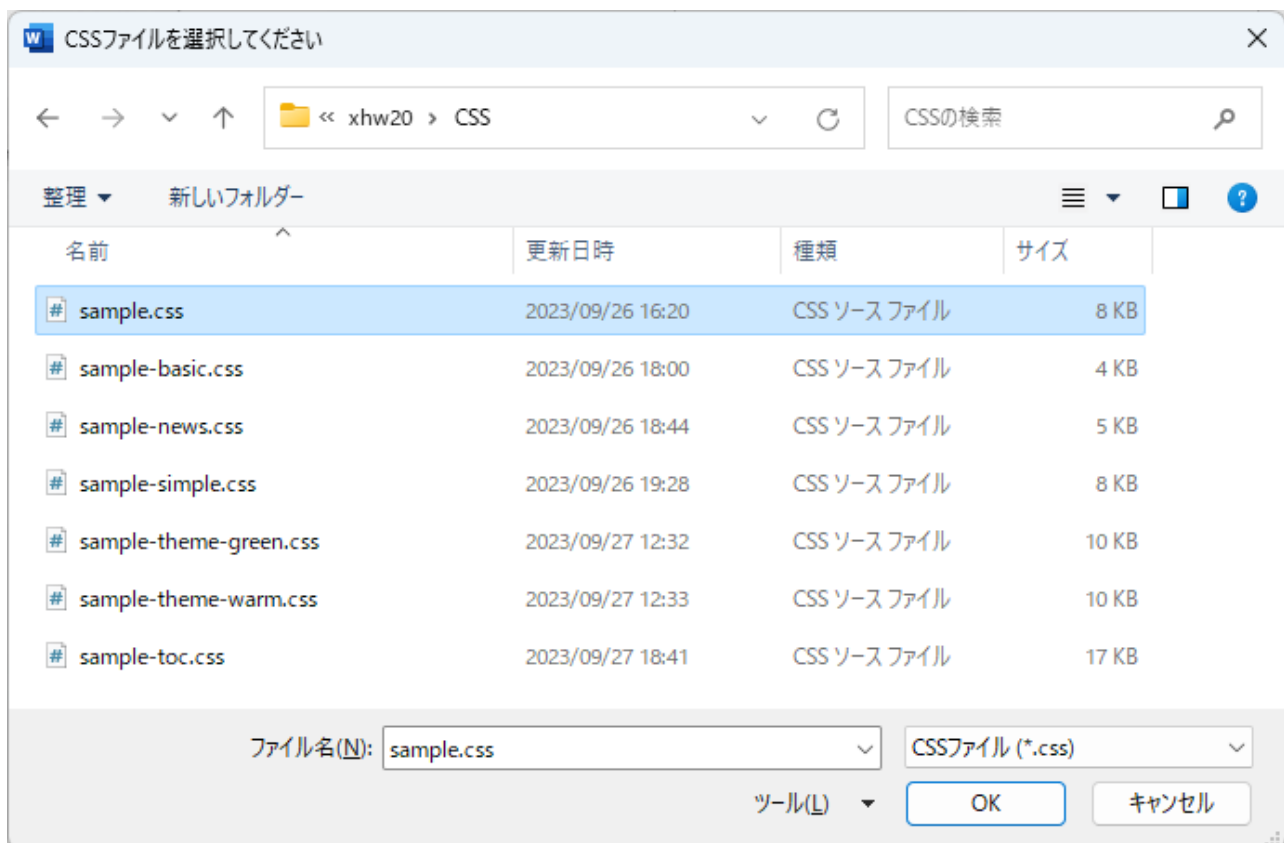
次回から、選択したフォルダーに変換結果が保存されます。この設定は該当の Word 文書を閉じるまで有効です。

4.4.3 「指定した CSS を用いる」

HTML ファイルは CSS でレイアウトを変更できます。変換出力される HTML ファイルに、このオプションで指定した CSS ファイルへのリンクを設定します。



「指定した CSS を用いる」チェックボックスにチェックすると、CSS ファイルを選択するダイアログが開くので、リンクしたい CSS ファイルを選択してください。

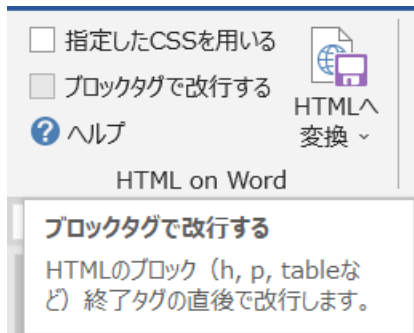


本製品にはサンプルの CSS ファイルが同梱されています。サンプル CSS ファイルは、本製品をインストールしたフォルダーの CSS フォルダにコピーされています。本製品に同梱されている CSS ファイルのほか、ご自分で用意した CSS ファイルをリンクできます。

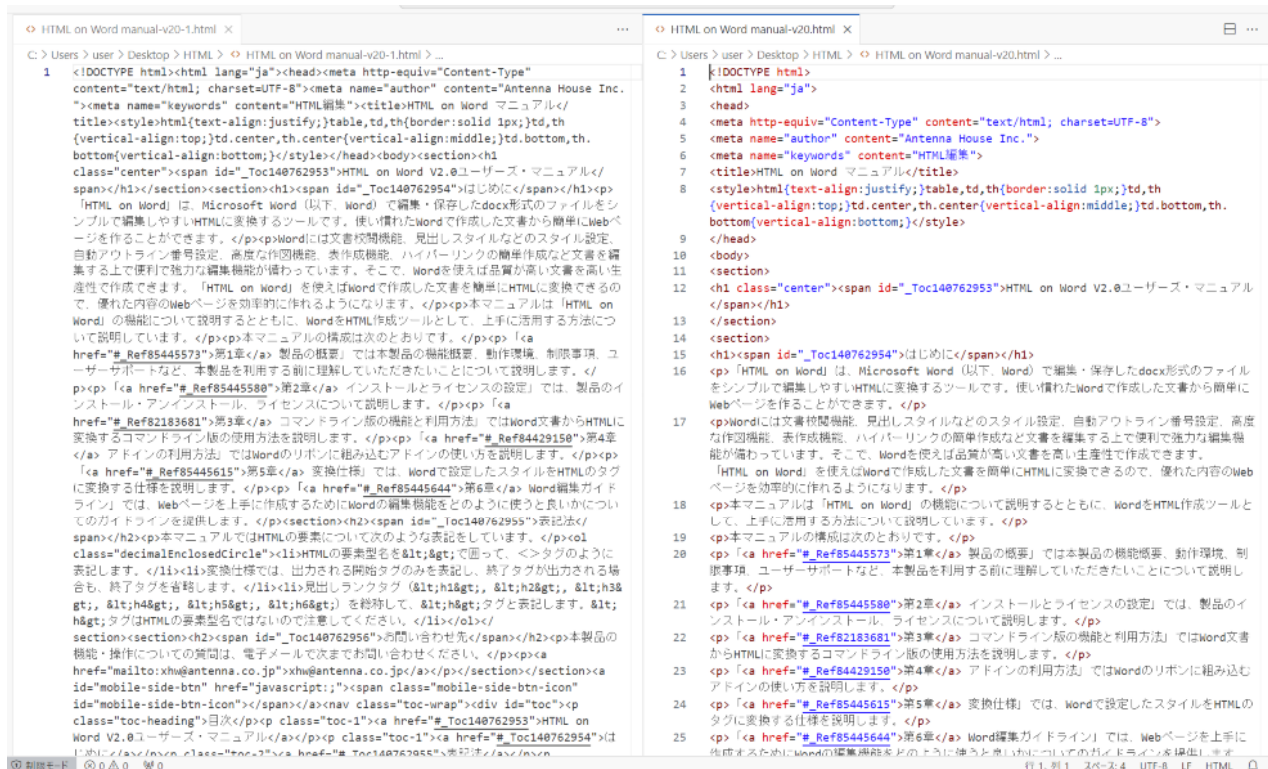
リンク設定した CSS ファイルは、変換先 HTML ファイルと同じフォルダーにコピーされます。

4.4.4 「ブロックタグで改行する」

「ブロックタグで改行する」チェックボックスをオンにすると、各ブロック終了タグの後ろに改行を出力します。変換した HTML ファイルをブラウザで表示するときは差がでませんが、HTML ファイルをテキストエディタで表示してタグを確認したり、編集したりするときに便利です。



ブロックタグで改行しない HTML ファイル（デフォルト、図左側）と、ブロックタグで改行するにチェックして出力した HTML ファイル（図右側）を、テキストエディタで表示して較すると次の図のようになります。



4.4.5 ヘルプ

「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Web ヘルプを表示します。ヘルプは、アンテナハウスのホームページにあります。URL は次のとおりです。

(ア) (日本語版) <https://www.antenna.co.jp/xhw/help/ja/> (本ヘルプ)

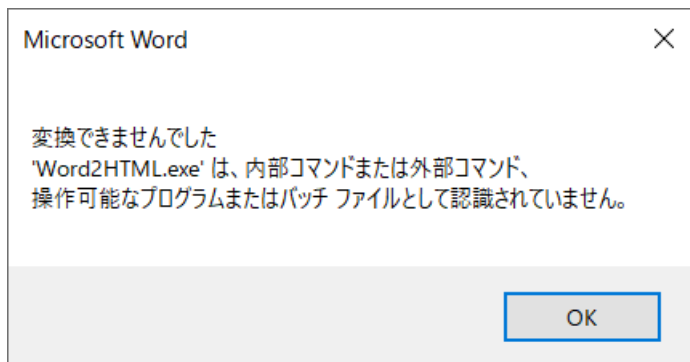
(イ) (英語版) <https://www.antenna.co.jp/xhw/help/en/>

4.5 エラーメッセージ

アドインの「HTMLへ変換」では、コマンドライン版（Word2HTML）を起動します。

変換時にエラーが発生したとき、ダイアログにコマンドライン版が出力したエラーメッセージが表示されます。

例えば、次のエラーメッセージは、Windows から Word2HTML プログラムが見つからないというメッセージです。原因はコマンドライン版が正常にインストールされていないか、または、コマンドライン版をインストールしたフォルダーへのパスが設定されていないことが考えられます。



その他のエラーメッセージ

エラーメッセージ	考えられる原因
“変換できませんでした。 File Location Unsupported. Please ensure the file is stored locally.”	Microsoft OneDrive のフォルダーなど、クラウドサービスと連携しているフォルダー内のファイルの変換、および同フォルダーへの出力した場合に表示します。クラウドサービスと連携していないフォルダーでご利用ください。
“変換できませんでした。 SVG file for index link not found.”	索引のリンクを示す画像“index-mark.svg”が、プログラムと同じフォルダーの「SVG」フォルダー内にはない状態です。 「SVG」フォルダー内に “index-mark.svg”があるかどうかご確認ください。

コマンドライン版のエラーメッセージについては、3.6 エラーメッセージを参照してください。

第5章 変換仕様

コマンドライン版で Word から HTML に変換するときの変換仕様を説明します。

5.1 変換元文書

変換元の対象文書ファイル形式は docx ファイルのみです。古い Microsoft Word で保存した doc 形式ファイルは変換処理の対象になりません。

5.2 変換先 HTML のバージョン

デフォルトでは HTML 仕様に準拠するタグを出力します。

◎HTML 仕様の参照先

変換オプションで 「-xhtml」 パラメータを指定すると XHTML1.0 準拠のタグを出力します。

なお、以下の変換仕様のタグ見本は HTML 仕様準拠の状態の説明しています。

5.3 ルート・ヘッダ・メタ情報

変換元	変換先 (HTML タグ)	備考
ルート	<pre><!DOCTYPE html> <html lang=""></pre>	日本語版 : lang="ja" 英語版 : lang="en" 言語判定は注 1 言語の指定は変換オプションのパラメータでも指定できます。
文字符号化方式	<pre><meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8"></pre>	UTF-8 が基本です。それ以外に Shift_JIS、UTF-16 を変換オプションのパラメータで指定できます。
情報：タイトル	<pre><head> <title>~</title> </head></pre>	Word 「情報」 タブのプロパティ 「タイトル」 の内容から取得します。
メタ情報	<pre><head> <meta name="author" content=""></pre>	Word 「情報」 タブのプロパティの項目を name 属性の値に、設定内容を content 属性

	<pre><meta name="description" content=""> <meta name="keywords" content=""></pre>	<p>の値に変換します。name 属性値と content 属性値の対応関係は次のとおりです。</p> <p>author : 作成者 description : コメント keywords : タグ</p>
CSS のリンク	<pre><link href="xxx.css" rel="stylesheet" type="text/css" media="print"></pre>	<p>xxx.css は指定した CSS ファイル名。media 属性はオプションです。</p>
デフォルトスタイル	<pre><head> <style>CSS スタイル</style> </head></pre>	<p>HTML 全体に適用するデフォルトの CSS を設定します。設定する内容は次のふたつです。</p> <p>①段落テキストの揃え (0 を参照) ②table の border 属性、td/th の垂直方向の位置 (vertical-align)</p> <p>但し、外部 CSS をリンクするときは出力しません。</p>
JavaScript の指定	<pre><head> <script src="xx/yy.js"></script> </head></pre>	<p>xx/yy.js は JavaScript のパス</p>

注1 言語判定

Word の文書中の全角幅の文字の割合とデフォルトスタイルの言語設定から推定しています。推定が正しくない場合があります。

このような場合、コマンドライン実行時の変換オプションで、言語を指定することができます。詳しくは変換オプションの表の「[-lang](#)」パラメータを参照してください。

5.4 ブロック要素

変換元		変換先 (HTML タグ)	備考
本文		<body>~</body>	
表 題 ス タ イ ル	表題スタイルに アウトラインレ ベル1が設定さ れているとき	<h1>~</h1>	Wordのスタイルギャラリーに登録されている表 題スタイルには、アウトラインレベル1が設定さ れているものと設定されていないものがある。
	表題スタイルに アウトラインレ ベルが設定され ていないとき	<p>~</p>	
段落		<p>内容</p>	デフォルトでは改行のみの行は無視する。 変換オプションで「-emptyP」パラメータを指定 すると、改行のみの行を空の<p></p>で出力す る。
強制改行		 	
強制改頁、改段		無視	
セクション		<h>開始タグが先頭ま たはその前によりラン クの小さい<h>タグの みのとき、<h>開始タ グの前に<section>開 始タグを出力する。 前方によりランクの大 きい<h>があるとき </section>を出す。	<h> の前の<section>タグでツリー構造を作る。 変換オプションで「-section 1~6」*パラメータ (*1~6のアウトラインを示す整数)を指定する ことで、<section>タグを出力するアウトライン レベルを指定できます。 変換オプションで「-xhtml」パラメータを指定す ると、<section>タグは<div class="section- area">タグで出力する。

5.4.1 見出しスタイルとアウトラインレベル

変換元	変換先 (HTML タグ)	備考
見出し 1～見出し 6 (見出しスタイル)	<h1>～<h6>	見出しスタイルのアウトラインレベルを見出しリンクタグに設定する。
見出し 7～見出し 9 (見出しスタイル)	<p class="l7">～ <p class="l9">	見出しスタイルのアウトラインレベル 7、8、9 は段落のクラス属性として設定する。
段落のアウトラインレベル 1～6	<h1>～<h6>	段落のアウトラインレベルを見出しリンクタグに設定する。
段落のアウトラインレベル 7～9	<p class="l7">～ <class="l9">	段落のアウトラインレベル 7、8 は段落のクラス属性として設定する。

5.4.2 見出しのアウトライン番号

見出しスタイルを指定した段落にアウトライン番号が付加されているとき、アウトライン番号を、class 属性の値 number を指定したタグで囲み、<h>タグの内容文字列として変換します。アウトライン番号と見出しのテキストの間には空気があるときは空気を半角空白として出力、またはタブがあるときは、タブを削除して代わりに半角空白が 1 文字入ります。

5.4.3 箇条書き

Word の箇条書きを指定した段落は、HTML の箇条書き (番号なしリスト) (/) に変換します。このとき Word 段落の行頭記号は削除されます。

5.4.4 段落番号と順序付きリスト

Word の段落番号機能を使用して、段落先頭に番号を付与した段落 (番号付きの段落) は次のように変換します。

- ① 番号付きの段落の前後が番号付きでない段落または改行のとき、その番号付き段落を HTML の段落 (<p>タグ) として出力します。このとき段落番号は、class 属性の値を number として指定した タグで囲ったうえで、通常の文字として出力します。
- ② 番号付きの段落がふたつ以上連続するとき、HTML の順序付きリスト (/タグ) に出力します。
 - (ア) 番号付き段落が階層化されていて、最初の段落と次の段落の階層が異なっても隣り合っていれば連続しているものと判定します。

(イ) Word 文書で指定されている番号の種類をタグの class 属性の値として設定します。
なお、開始番号が 2 以上の場合に start 属性に開始番号が指定されます。

5.4.5 段落スタイル名（オプション）

デフォルトでは段落スタイル名は出力しません。

変換オプションで「-pstyle」パラメータを指定すると、Word の段落に段落スタイルが指定されているとき、段落スタイルの名前を<p>タグまたは<h>タグの class 属性の値として出力します。段落スタイル機能を使わずに段落書式を指定しているときには class 属性の値は設定されません。

5.5 図および図の配置

5.5.1 図の出力フォルダーとファイル名

- ① docx 文書に挿入された図は docx 文書から取り出され、そのパスが HTML のタグの src 属性の値に設定されます。取り出した図ファイルを収めるフォルダーはデフォルトでは“image”です。変換オプションの「-fileimages」パラメータを指定すると、出力 HTML ファイル毎に“出力ファイル名.images”フォルダーを作成します。ファイル名は自動生成の連番となります。
- ② docx 文書にリンクされた図は、リンク元のファイルのパスを HTML のタグの src 属性の値に設定されます。リンクされた図ファイルの複製や移動は行いません。図のパスは出力 HTML ファイルからの相対パスに変換します。元の docx 文書とリンクされた図のフォルダーが移動されている場合、パスを適切な相対パスにできないことがあります。

なお、「-embedding」パラメータを指定すると、画像は HTML ファイルに埋め込まれます。

5.5.2 画像と図形の形式

デフォルトではイメージ画像は PNG または JPEG 形式に変換し、オートシェイプや Word で挿入した線画図形、EMF、WMF 形式の図形ファイルは SVG 形式に変換して出力します。

変換オプションで「-throughimg」パラメータを指定すると GIF、EMF、WMF 形式で Word に挿入された画像・図形はファイル形式を変換しないで、元の形式のまま図の出力フォルダーに保存します。

5.5.3 図の配置設定

Word の図の配置で指定したレイアウトオプションの種類をの class 属性として保存します。

変換元	オプション	クラス属性
行内		class="inline"
文字列の折り返し 	文字列の折り返し共通	class="block"
	 四角形	class="block square"
	 狭く	class="block tight"
	 内部	class="block through"
	 上下	class="block top-bottom"
	 背面	class="block behind"
	 全面	class="block front"

ご注意

CSS では図の配置がインラインかブロックかを display プロパティで指定します。display プロパティのデフォルト値は inline なので、Word で図の配置に文字列の折り返しを設定してもブラウザでは行内配置として表示される場合があります。このような場合には、CSS で次のように指定してください。

```
img.block {  
display: block;  
}
```

5.5.4 文字列の折り返しを指定した図を出力する位置

文字列の折り返しを指定した図のためのタグを出力する位置は、見出し、段落ではアンカーを設定したブロックの終了タグの後ろです。しかし、箇条書きの項目では終了タグの直前になります。詳細は、6.4 図のレイアウトの項を参照してください。

5.5.5 図の代替テキスト

HTML のタグに alt 属性を出力します。alt 属性の値は、Word 文書に挿入した図の代替テキストに入力した文字列を出力します。文字列が設定されていない場合は「Please enter alt text.」が出力されます。

5.6 数式

Word の数式エディタで編集した数式は、デフォルトではタグを使って SVG 形式ファイルとして出力します。

変換オプションのパラメータによって、MathML 形式の外部ファイルに変換、MathML 形式のマークアップに変換、Word の Office Open XML の独自数式表現である Office Math マークアップとして出力できます。

パラメータ	出力形式
未指定	数式をタグに svg 形式ファイルで出力
-math	数式をタグに MathML 形式ファイルで出力
-xmath	数式を MathML 形式マークアップで出力
-omath	数式を Word 独自の Office Math 形式で出力

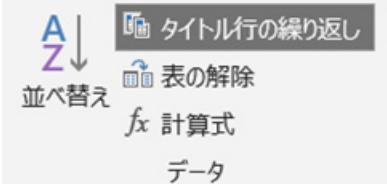
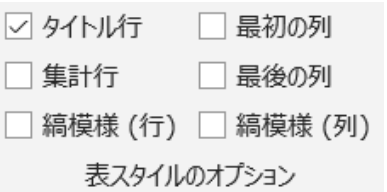
5.7 表

変換元	HTML 要素	example
表	<pre><table> <tbody> <tr> <td></pre>	<p>Word のリボン「表ツール：テーブルデザイン」の「表のスタイル」のプロパティ：名前を設定した値が<table>タグの class 属性として出力されます。</p> <p>スタイル名は半角英数字と一部の半角記号以外は、class 属性の値に出力されません。</p>
結合	セル結合	<pre><td colspan="n"></pre> <p>n は横結合セルの数</p>
	行結合	<pre><td rowspan="n"></pre> <p>n は縦結合セルの数</p>

5.7.1 表の見出し行

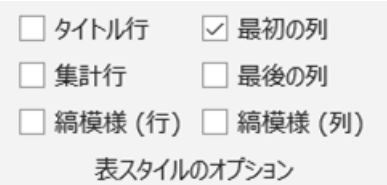
表の見出しタグ（テーブルヘッダ：thead）を出力するには、表の先頭行に次のどちらかを設定します。

- ① 表の先頭行を選択して、Word のリボン「表ツール：レイアウト」の「タイトル行の繰り返し」をオンにする。
- ② Word のリボン「表ツール：テーブルデザイン」の「表スタイルのオプション」で「タイトル行」**のみ**にチェックする。

変換元	HTML 要素	説明
 <p>リボンの表ツール：レイアウト</p>	<pre><thead><tr><td>…</td> ></tr></thead></pre>	<p>表の先頭行が<thead>で囲まれます。</p> <p>「タイトル行の繰り返し」をオンにすると、表がページを跨ったときに、各ページにタイトル行が繰り返し表示されます。これを避けたいときには、「タイトル行の繰り返し」をオフにして、テーブルデザインの表スタイルのオプションで「タイトル行」にチェックします。</p>
 <p>リボンの表ツール：テーブルデザインの表スタイルのオプション</p>		


5.7.2 表の見出し列

表の先頭列を選択して、Wordのリボン「表ツール：テーブルデザイン」の「表スタイルのオプション」で「最初の列」**のみ**にチェックすると先頭列のセルを見出しセルに設定します。

変換元	HTML 要素	説明
 <p>リボンの表ツール：テーブルデザインの表スタイルのオプション</p>	<pre><tr><th>…</th></tr></pre>	<p>表の先頭列のセルが見出しセルのタグでマークアップされます。</p>

5.7.3 セルの配置

Wordのリボン「表ツール：レイアウト」の「配置」や、表のスタイルプロパティのセルで、セル内の配置位置を指定した場合、垂直方向の位置については<td>/<th>タグに class 属性を出力し、HTML の<head>内に<style>タグでスタイルを定義します。但し、外部 CSS をリンクさせた場合、または変換オプションで「-defstyle」を指定した場合はスタイルの定義を出力しません。

変換元	HTML 要素	説明
 <p>レイアウト</p> <p>文字列の方向</p> <p>セルの配置</p> <p>配置</p> <p>リボンの表ツール：レイアウトの配置オプション</p>	<pre><head>内への出力 <style>html{text-align:justify;}table,td,th{border:solid 1px;}td,th{vertical-align:top;}td.center,th.center{vertical-align:middle;}td.bottom,th.bottom{vertical-align:bottom;}</style></pre>	<p>関連するスタイルは左のソースコード内の太字箇所</p>
上揃え	デフォルト値のため出力されません。	
中央揃え（垂直方向）	<code><td class="center">/<th class="center"></code>	
下揃え	<code><td class="bottom">/<th class="bottom"></code>	

ヒント

水平方向の配置位置は<td>/<th>タグ内の段落<p>タグに class 属性として出力します。

左揃え：class="start"

中央揃え：class="center"

右揃え：class="end"

5.8 インライン要素

5.8.1 フォントグループ

フォントグループ	HTML 要素	example
ボールド	strong	変換オプションで「-hstrong」パラメータを指定した場合は、見出しスタイルに設定されたボールドを無視します。
イタリック	デフォルトでは無視します。変換オプションで<i>タグ、タグまたは次の CSS スタイル指定を設定して出力します。 	
アンダーライン	デフォルトでは無視します。オプションで<u>タグまたは次の CSS スタイル指定を設定して出力します。 なお、リンクのアンカーテキストにはアンダーラインを付けません。	
取り消し線	デフォルトでは無視します。変換オプションでタグまたは次の CSS スタイル指定を設定して出力します。 	
下付き	sub	
上付き	sup	
文字の効果と体裁	無視	
ハイライト (蛍光ペンの色)	無視	

文字の色	デフォルトでは無視します。変換オプションで次の CSS スタイル指定を設定して出力します。 	文字の色赤、文字の色緑
文字の網掛け	無視	
囲い文字	無視	
フォント	無視	
フォントサイズ	無視	
文字種	無視	
ルビ	ruby rp rt	<pre><ruby>紫陽花<rt>あじさい</ruby> <ruby>漢<rp> (</rp><rt>かん</rt><rp> (</rp><rt>じ</rt><rp> (</rp><rt>じ</rt><rp> (</rp></ruby></pre>
囲み線	無視	

5.8.2 リンクと相互参照

参考資料	HTML 要素	example
リンク (外部 URL)	<code>ラベル</code>	リボン「挿入」の「リンク」
リンク (id)	<code>ラベル</code>	
相互参照	<code> ラベル</code>	リボン「参考資料」の図表グループの「相互参照」による Word 文書内の参照。
	<code></code>	
id の値	<code></code>	ブックマーク「 here 」へのリンク
リンクのターゲット フレーム	<code></code>	リボン「挿入」の「リンク」 > 「ターゲット フレーム」で指定した次の選択肢を、それぞれターゲット名に出力 テキストおよび画像に設定したハイパーリンクで有効 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じフレーム：_self ・ ページ全体：_top ・ 新しいウィンドウ：_blank ・ 親フレーム：_parent ※設定しない、または上記以外を選択した場合は「target」属性を出力しません。

ご注意

ターゲットフレームはハイパーリンクでアドレスを指定した場合のみ有効です。

5.9 段落テキストの揃え

Microsoft Word のリボン「ホーム」のスタイルギャラリーにある「標準」スタイルに設定されている段落の揃えを<head>の<style>要素に設定します。但し、「標準」スタイルに左揃えが設定されているとき、CSS では text-align:start はデフォルト値にあたり、揃えを指定する必要がないので設定しません。

なお、<head>の<style>は変換オプションの「-defstyle」パラメータが指定されていると出力されません（「3.2 変換オプション」を参照）。

段落の揃え		要素とクラス属性	example
「標準」 スタイル の揃え	左揃え	設定なし	<style></style>
	中央揃え	text-align:center	<style>html{text-align:center;}</style>
	右揃え	text-align:end	<style>html{text-align:end;}</style>
	両端揃え	text-align:justify	<style>html{text-align:justify;}</style>
	均等割り付け	text-align:justify; text-justify:auto;	<style>html{text-align:justify;text-justify:auto;}</style>

リボン「ホーム」の「段落グループ」で、標準以外の段落の揃えを指定すると見出しランクタグ（h1～h6）または p タグに次のクラス属性を設定します。

段落の揃え	要素とクラス属性	example
左揃え	class="start"	<p class="start">…</p>
中央揃え	class="center"	<p class="center">…</p>
右揃え	class="end"	<p class="end">…</p>
両端揃え	class=" justify "	<p>…</p>
均等割り付け	class="distribute"	<p class="distribute">…</p>

5.10 テキストボックス

- 枠線のないテキストボックスの内容はテキストボックスが存在しないものとして変換されます。
- 枠線が設定されたテキストボックスは線画（SVG 画像）に変換され、img の src 属性にファイル名が出力されます。

5.11 脚注

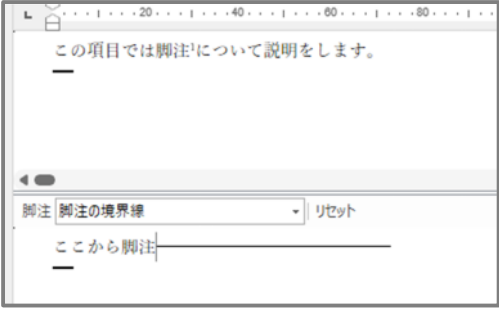
Word 文書中に脚注がある場合に、html へ出力します。

脚注は次の変換オプションの指定によって出力方法が変わります。

パラメータ 値	HTML 要素	説明
-footnote f (デフォルト)	<p>本文の脚注参照マーク箇所： <code><sup>1</sup></code> 脚注箇所： <code><aside class="footnote"></code> <code><hr></code> <code><p><sup>1</sup> 脚注とは</code> <code></p></code> <code></aside></code> HTML 表示例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>この項目では脚注¹について説明をします。</p> <hr/> <p>¹ 脚注とは</p> </div>	<p>脚注を文章の最後（分割して HTML を出力する場合は最後の HTML ファイル内の文章の最後）に出力し、本文中の参照マークに付与したハイパーリンクから、該当の脚注に移動できるように id を設定します。</p> <p>脚注は<aside>タグで囲って出力します。</p> <p>「-xhtml」パラメータを指定した場合は、<div>タグで囲って出力します。</p> <p>脚注と文末脚注がある場合は、脚注の後に文末脚注が出力されます。</p>
-footnote t	<p><code><sup>1</sup></code> HTML 表示例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>この項目では脚注¹について説明をします。</p> <p style="text-align: center;">脚注とは</p> </div>	<p>本文中の参照マークにタグを追加し、「title」属性の値に該当の脚注のテキストを出力し、参照マークのマウスオーバー時にツールチップを表示できます。</p> <p>※文章の最後に脚注は出力しません。</p>
-footnote n		<p>脚注および脚注の参照マークは出力しません。</p>

その他のオプション

パラメータ 値	Word の設定例と出力結果	説明
-endnoteld	<div data-bbox="384 367 879 1149" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>脚注と文末脚注</p> <p>場所</p> <p><input checked="" type="radio"/> 脚注(E): ページの最後</p> <p><input type="radio"/> 文末脚注(E): 文書の最後</p> <p>変換(C)...</p> <p>脚注のレイアウト</p> <p>列(Q): セクションレイアウトと一致</p> <p>書式</p> <p>番号書式(N): 1, 2, 3, ...</p> <p>任意の脚注記号(U): 記号(Y)...</p> <p>開始番号(S): 5</p> <p>番号の付け方(M): 連続</p> <p>変更の反映</p> <p>変更の対象(P): 選択している文字列</p> <p>挿入(I) キャンセル 適用(A)</p> </div> <p>パラメータ未設定時</p> <p><p>この項目では脚注<sup>5</sup>について説明をします。</p></p> <p><aside class="footnote"></p> <p><hr></p> <p><p class="start"><sup>5</sup> 脚注とは</p> <p></p></p> <p>パラメータ設定時</p> <p><p>この項目では脚注<sup>5</sup>について説明をします。</p></p> <p><aside class="footnote"></p> <p><hr></p> <p><p class="start"><sup>5</sup> 脚注とは</p>	<p>Word 文書中に脚注を挿入する際、脚注の連番の開始番号を「1」以外にした場合に、出力した HTML の脚注文字 (<sup>タグ) の番号と、その脚注を指定する「id」の末尾に使用される番号を一致させることができます。</p>

	<pre></p> </aside></pre>	
-customSep	<p>境界線の編集</p>  <p>パラメータ未設定時：</p> <pre><aside class="footnote"> <hr> <p class="start"><sup>1</sup> 脚注とは </p> </aside></pre> <p>パラメータ設定時：</p> <pre><aside class="footnote"> <p>ここから脚注</p> <p class="start"><sup>1</sup> 脚注とは </p> </aside></pre>	<p>脚注を挿入した場合の本文との境界線を指定します。標準では境界線をすべて<hr>タグで出力します。「-customSep」パラメータを指定した場合は、Word上で編集した文字列や表を出力することができます。境界線が含まれる場合は、<hr>タグの代わりにタグで出力されません。</p>

5.12 文末脚注

Word 文書中に文末脚注がある場合に、html へ出力します。

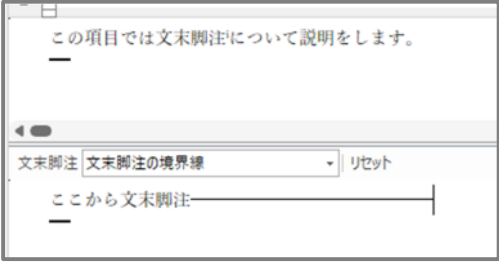
文末脚注は文章の最後（分割して HTML を出力する場合は最後の HTML ファイル内の文章の最後）に出力し、本文中の参照マークに付与したハイパーリンクから、該当の脚注／文末脚注に移動できるように id を設定します。

脚注のオプション「-footnote f」を指定した場合のみ、以下のように脚注と同様の出力をします。

パラメータ 値	HTML 要素	説明
-footnote f (デフォルト)	本文の文末脚注参照マーク箇所： <code><sup>i</sup></code> 文末脚注箇所： <code><aside class="endnote"></code> <code><hr></code> <code><p><sup>i</sup> 文末脚注</code> <code></p></code> <code></aside></code>	文末脚注を<aside>タグで囲って出力します。 「-xhtml」パラメータを指定した場合は、<div>タグで囲って出力します。 脚注と文末脚注がある場合は、脚注の後に文末脚注が出力されます。 「-footnote f」以外の指定時は<aside>または<div>タグは出力しません。

その他のオプション

パラメータ 値	Word の設定例と出力結果	説明
-endnoteld	 <p>パラメータ未設定時</p> <pre><p>この項目では文末脚注<sup>v</sup> について説明をします。</p> <hr> <p class="start"><sup>v</sup> 文末脚注とは</p></pre> <p>パラメータ設定時</p> <pre><p>この項目では文末脚注<sup>v</sup> について説明をします。</p> <hr> <p class="start"><sup>v</sup> 文末脚注とは</p></pre>	<p>Word 文書中に文末脚注を挿入する際、文末脚注の連番の開始番号を「i」(1) 以外にした場合に、出力した HTML の文末脚注文字 (<sup>タグ) の番号と、その文末脚注を指定する「id」の末尾に使用される番号を一致させることができます。</p>

<p>-customSep</p>	<p>境界線の編集</p>  <p>パラメータ未設定時： <code><p>この項目では文末脚注<sup>i</sup>について説明をします。</p><hr><p class="start"><sup>i</sup> 文末脚注とは</p></code></p> <p>パラメータ設定時： <code><p>この項目では文末脚注<sup>i</sup>について説明をします。</p><p>ここから文末脚注</p><p class="start"><sup>i</sup> 文末脚注とは</p></code></p>	<p>文末脚注を挿入した場合の本文との境界線を指定します。標準では境界線をすべて<hr>タグで出力します。</p> <p>「-customSep」パラメータを指定した場合は、Word上で編集した文字列や表を出力することができます。境界線が含まれる場合は、<hr>タグの代わりにタグで出力されます。</p>
-------------------	---	--

5.13 目次出力

Word の目次機能を利用して作成した目次箇所を HTML ファイルに出力して、目次項目にある見出し箇所へのリンクを付与します。目次箇所は次の内容で出力します。

ご注意

- アウトラインレベルが設定された段落から作成された目次のみ対応します。
- 複数の目次がある場合、一つのみ目次として扱い処理をします。
その場合、Word の目次機能にある「組み込み」で作成された目次を優先します。
それ以外の場合は文書内で最初に出現した目次を目次として扱います。
- 図表目次は対象外となります。

	HTML 要素	説明
①	<code></code>	<p><code><nav></code> タグの直前の <code><a>~</code> はモバイル表示時の目次箇所の表示コントロールボタンにご利用いただけます。</p> <p>モバイル用のボタンについては、下記 Web ページにサンプルを用意していますので、ご参考にしてください。</p> <p>https://www.antenna.co.jp/xhw/sample.html</p>
②	<code><nav class="toc-wrap"></code>	<p>目次箇所④⑤を②<code><nav></code>と③<code><div></code>タグで囲って出力します。</p> <p>変換オプションで「-split」+「-tocout」パラメータを指定した場合、③~⑤を別の HTML ファイル「inc-toc.html」として出力します。</p>
③	<code><div id="toc"></code>	
④	<code><p class="toc-heading">[目次見出し]</p></code>	<p>目次見出しの段落に設定されている段落スタイル名（空白は“-”に変換）が出力されます。</p> <p>Word の目次機能の「組み込み」で挿入した目次の場合、デフォルトで <code><p class="toc-heading"></code> が出力されます。</p>
⑤	<code><p class="toc-[n]">[見出し名]</p></code>	<p>各目次の項目の段落に設定されている段落スタイル名（空白は“-”に置換）が出力されます。</p> <p>Word の目次機能の「組み込み」で挿入した目次の場合、デフォルトで <code><p class="toc-[n]"></code> が出力されます。（[n]は 1~6 の数値）</p>

		<p>該当の見出し id へのリンクは「#_Toc」で始まる URL が出力されます。</p> <p>変換オプションで「-split 1 2 3」パラメータを指定して HTML ファイルを分割して出力した場合は、分割先の HTML のファイル名と id で出力されます。(例. index-1.html#_Toc○○○)</p>
--	--	--

5.13.1 分割出力時の目次箇所

変換オプションで「-split 1|2|3」パラメータを指定して、出力する HTML ファイルを Word のアウトラインレベルに応じて分割出力した場合、目次箇所は次のように出力されます。

指定するパラメータ	出力内容	備考
-split 1 2 3 のみ	<p>「5.12 目次出力」の表の①～⑤を、分割出力するすべての HTML ファイルの<body>タグ直後に出力します。</p> <p>またこの時、自身の HTML ファイルを示す目次項目（ページ内で最上位の階層レベル）の段落<p>タグの class 属性に「active」が出力されます。</p>	
-split 1 2 3 -tocout	<p>「5.12 目次出力」の表の③～⑤を別の HTML ファイル (inc-toc.html) として出力します。</p> <p>また、①②を分割出力するすべての HTML ファイルの<body>タグ直後に出力します。</p>	<p>inc-toc.html は JavaScript を利用して分割出力した HTML ファイルに読み込んだり、他の HTML ファイルに読み込むことにご利用いただけます。</p> <p>このため inc-toc.html には <html><head><body>など、③～⑤以外のタグは出力されません。</p> <p>JavaScript を利用した目次箇所の読み込み例について、下記 Web ページにサンプルを用意していますので、ご参考にしてください。 https://www.antenna.co.jp/xhw/sample.html</p>

5.14 索引

Word 上で作成した索引に、索引の登録箇所に移動するハイパーリンクを付けて出力します。Word の機能では索引に索引の登録箇所へのリンクを設定できませんが、弊社独自の解析処理によって、HTML へ変換時にハイパーリンクを設定して出力します。

索引箇所は <div class="index-list-area"></div> タグで囲います。

また、それぞれの登録文字列とリンクを示すマーク画像 (index-mark.svg) は<p class="index-list"></p>タグで囲います。

リンクを示すマーク画像 (index-mark.svg) は、Word 文書内に索引がある場合に、HTML 出力時に画像の出力先フォルダーにコピーします。

リンクを示すマーク

```
<p class="_12 index-list">コマンドライン版, <a href="/index-2.html#xeLink_1">
</a></p>
```

索引

X

xhwlic.dat, ■

こ

コマンドライン版, ■

は

パラメータ, ■

あ

アドイン, ■

アドインの登録解除, ■

アドインメニュー, ■

し

シリアル番号, ■

ひ

評価版, ■

せ

へ

```
pan id="_Toc192493121">コマンドライン版<span id="xeLink_1"></span>の機能</pre>


変換するコンバータ (変換エンジン) です。変換工 索引登録箇所 具の製品である  

「Document Converter</a>」の技術を使って、独自に開発したものです。Wordの「名前  

sのコマンドライン版プログラムとして動作します。</p>


```

接操作できます。Wordで編集集中の文書を、アドインのメニューからHTMLに変換するときは

※索引のハイパーリンクは標準で出力します。パラメータの指定は不要です。

※索引登録で登録した XE (インデックス エントリ) フィールドを手動で変更したり、フィールド機能で挿入した XE フィールド、INDEX フィールドの場合、Word 上の表示と同じ出力にならなかったり、正常に出力できない場合があります。

※「索引登録」画面の「オプション」項目と「ページ番号の書式」項目で設定した内容は、出力する HTML の索引には反映されません。(ページ番号は出力されません)

5.15 分割出力

変換オプションで「-split 1|2|3」パラメータを指定すると、Word 文書で指定された段落のアウトラインレベルに応じて、HTML ファイルを分割して出力します。指定できるアウトラインのレベルは 1～3 です。

分割時の内容は以下の通りです。

項目	内容	備考
分割ポイント	Word の段落のアウトラインレベル（指定した-split に続く値）の内、次の同レベルの段落の直前で分割	値に 2 または 3 を指定した場合は、上位のレベルの直前でもそれぞれ分割します。
出力ファイル名	分割出力されるファイル名は、指定したファイル名の拡張子 (.html) の前に「-」（ハイフン）でつなぐ連番の数字で出力されます。最初のページは指定した出力ファイル名です。	出力ファイル名に index.html を指定した例。 index.html, index-1.html, index-2.html, index-3.html, . . .
出力される HTML	<html>, <meta>, <style>, <link> (CSS) , <script> (JavaScript) , <body>タグはすべてのページで共通です。 <title>タグは該当ページの[アウトラインレベル 1 のラベル] - [アウトラインレベル 2 のラベル] - [アウトラインレベル 3 のラベル] - [Word 文書の情報に設定されているタイトル]が設定されます。	<title>タグ内は指定したアウトラインレベルより下位のラベルは出力されません。 例. -split 1 を指定した場合 [アウトラインレベル 1 のラベル] - [Word 文書の情報に設定されているタイトル]
目次箇所	目次箇所は分割したすべての HTML ファイルの上部 (<body>タグの直後) に出力します。	同時に「-tocout」パラメータを指定していた場合は、目次箇所の<div id="toc">～</div>を別の HTML ファイル(inc-toc.html)として出力します。 詳細は「5.13.1 分割出力時の目次箇所」を参照してください。
ページ移動リンク	変換オプションで「-split 1 2 3」パラメータを指定時に、「-pagenavi」パラメータを指定した場合は、表示している HTML ファイルの前後のページに移動するリンクを出力します。	詳細は「5.16 ページ移動リンク出力」を参照してください。

5.16 ページ移動リンク出力

変換オプションで「-split 1|2|3」パラメータを指定時に、「-pagenavi」パラメータを指定すると、分割した HTML ファイルの上部（目次箇所がある場合は目次箇所の直後）と下部（</body>タグの直前）に、分割出力される HTML ファイル名の連番をもとに、前のページと次のページに移動するリンクを出力します。

リンクのラベルはパラメータに続く値の指定で、日本語または英語で出力できます。

値	リンクのラベル	備考
ja	日本語で「前へ」「次へ」	前のページ、または次のページがない場合は「前へ」または「次へ」リンクは出力しません。
「ja」以外を指定した場合、または省略した場合	英語で「Prev」「Next」	前のページ、または次のページがない場合は「Prev」または「Next」リンクは出力しません。

5.16.1 出力される HTML 要素

「-pagenavi」パラメータに続く値を「ja」で指定した場合、次のよう出力します。(出力ファイル名が index.html で、分割した HTML ファイルのうち index-1.html の HTML ソースコードを表示した例)

上部に出力されるタグ

```
<nav>
<div class="pagenavi-wrap-top">
<div class="pagenavi-prev">
<a href="index.html">前へ</a></div>
<div class="pagenavi-next">
<a href="index-2.html">次へ</a></div>
</div>
</nav>
```

下部に出力されるタグ

```
<nav>
<div class="pagenavi-wrap-bottom">
<div class="pagenavi-prev">
<a href="index.html">前へ</a></div>
<div class="pagenavi-next">
<a href="index-2.html">次へ</a></div>
</div></nav>
```

第6章 Word 編集ガイドライン

6.1 コンテンツとスタイル分離原則について

6.1.1 Web ページのコンテンツとレイアウト分離とは？

Web ページのテキスト、画像、表、などの実質的な内容のことをコンテンツといいます。また、ブロックの配置の指定、ブロック周囲の空き、周囲を罫線で囲むかどうか、その色合い、表示するフォント、文字の大きさなどの見栄え体裁を指定することをレイアウトといいます。

Web ページの制作ではコンテンツを HTML の該当するタグでマークアップして表し、レイアウトを CSS で指定します。最新の HTML では、**コンテンツとレイアウトを分離するのが基本原則**とされています。

6.1.2 Word はコンテンツとレイアウトが混然一体

これに対して、Word で文書を編集するときは、テキストの書式や画像の配置などは、画面上で編集しながらテキストや画像に直接指定していく方式です。Word は文書を印刷したときに画面上のレイアウトのとおりになる「WYSIWYG」という方式で、文書のレイアウトに対する考え方が HTML とは根本的に異なります。

このため Word で作成した文書から Web ページを作成するのは非常に困難です。Microsoft Word には、リボン「ファイル」の「名前を付けて保存」で、保存するファイルの種類として、「Web ページ」を選択すると、一見、ブラウザで表示できる Web 形式で保存できます。しかし、残念ながら Word で保存した Web ページ形式は、そのままではまったく使いものになりません。

この原因は、Word は編集時に画面で指定した印刷用の体裁や配置などのレイアウトを Web ページで再現しようとするためです。

6.1.3 本製品は変換時に Word のレイアウト指定を原則無視

こうした問題を解決するために、本製品は Word で作成した文書のレイアウト指定をすべて捨ててコンテンツを純粋な HTML のタグで表現します。

本製品を使いこなすには、まず、この基本をご理解いただく必要があります。

大前提として、Word で HTML のタグを直接書くわけではありませんが、Word 文書から変換した結果が適切な HTML になるためには、HTML のタグについての理解が欠かせません。そのうえで、現在編集している Word のスタイル設定が、どのような HTML のタグに変換されるかを頭において、Word 文書を編集する必要があります。

本章では、このような観点から、Word 文書を編集する際に注意していただきたい事柄を説明します。

6.1.4 Word 文書を作成するときに避けて欲しいこと

Word の編集画面で、次のような編集操作を避けてください。

1. 行の先頭位置を空白文字で調整すること
2. 文章が続いている行の途中で改行すること。

例えば箇条書きの項目が 2 行に渡るとき、1 行目の終わりに改行を入力し、2 行目の先頭位置に空白を入れて行頭を整えるような編集をすると、紙への印刷や PDF にするときは問題ありませんが、HTML にしたときは文章のつながりが崩れてしまいます。

6.2 HTML の見出しランクタグの出力

HTML の見出しランクタグ (h1～h6) は、見出しを表すためのタグです。Web ページの制作について SEO の観点から、見出しランク 1 を表す h1 タグは通常文書先頭に、1 回だけ全体のタイトルとしての見出しを表す、と説明していることがあります。その場合には、Word の文書の先頭に (h1 タグに変換される)「見出し 1」を一回だけ使います。

但し、HTML としては、h1 タグが文書中に何度もでてきても問題ありません。そのような HTML を制作する場合は、「見出し 1」を何回でも指定することができます。

本製品では見出しランクタグのランクに応じて、セクションを階層化します。h1 を大見出し、h2 が中見出し、h3 が小見出しという階層構造を表すように使うときは、Word 文書には、見出し 1、見出し 2、見出し 3 の順で現れるように指定します。見出し 1 の下に見出し 2 を繰り返し、見出し 2 の下に見出し 3 を繰り返すことができます。

6.2.1 Word の見出しスタイルを設定する




Word で見出しを付けるときは、Word に組み込まれている「見出しスタイル」を適用してください。Word の「見出しスタイル」は見出し 1～見出し 9 まで用意されています。

Word2HTML コンバータは、見出しスタイル 1 に HTML の見出しランクタグ h1 を対応付けます。見出しスタイル 2 から同 6 までに見出しランクタグ h2 から h6 を設定します。

ご注意

Word のテーマによっては、見出しスタイルにアウトラインレベル (後述) が設定されていないことがあります。Word 文書でこのような見出しスタイルを使ったときは、見出しスタイルを設定しても、その段落に見出しランクタグは設定されません。

段落にアウトラインレベルが設定されているかどうかは、段落の上にカーソルを重ねて (ホバー) みることで判断できます。アウトラインレベルが設定されている段落には、カーソルをホバーしたとき段落の左側に ▲ マークが表示されます。

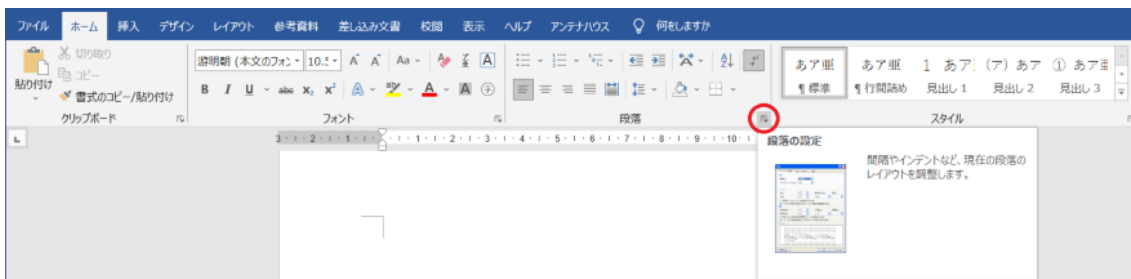
-  ② → Word の見出しスタイルのアウトラインレベル 
Word に組み込まれている「見出しスタイル」には、見出しスタイルにはアウトラインレベルが設定されています。 


6.2.2 表題を設定する

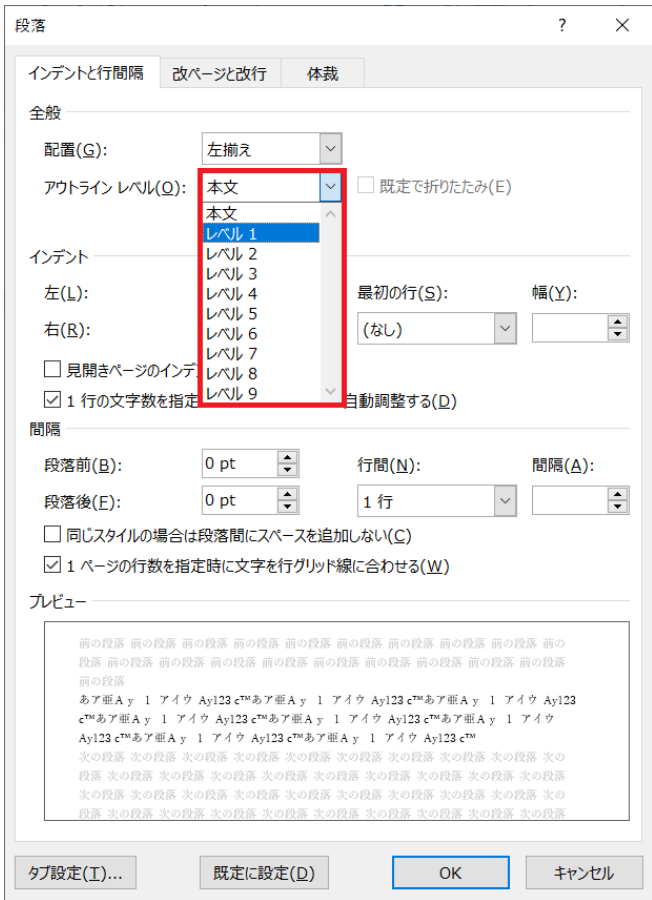
Wordの組み込みスタイルのひとつに「表題」があります。表題スタイルには「アウトラインレベル 1」が設定されていることがあります。Word文書で、段落にそのような表題スタイルを適用した場合、Word2HTMLコンバータの変換結果では、当該段落にh1タグが設定されます。

6.2.3 Wordの段落アウトラインレベルを設定する

Wordには段落のアウトラインレベルという機能があり、段落を9段階の階層化設定できます。段落のアウトラインレベルは、リボンの「ホーム」タブの「段落グループ」の「段落」ダイアログで設定します。



「段落」ダイアログは、段落グループの右下にある矢印をクリックすると表示されます。

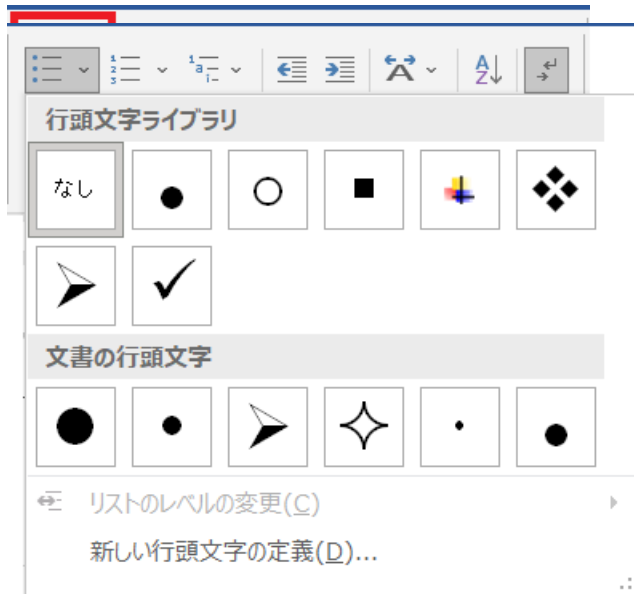


Word2HTML コンバータは、アウトラインレベル 1 からアウトラインレベル 6 までを HTML の見出しランクタグ h1 から h6 に対応つけます。つまり、Word でアウトラインレベル 1 を設定した段落は、HTML の見出しランク 1 (h1) となります。

6.3 箇条書きと段落番号

6.3.1 箇条書き

Word のリボン「ホーム」にある「箇条書き」は、行頭に記号を付けた段落を作成します。Word では行頭文字ライブラリによって、行頭記号の変更ができます。

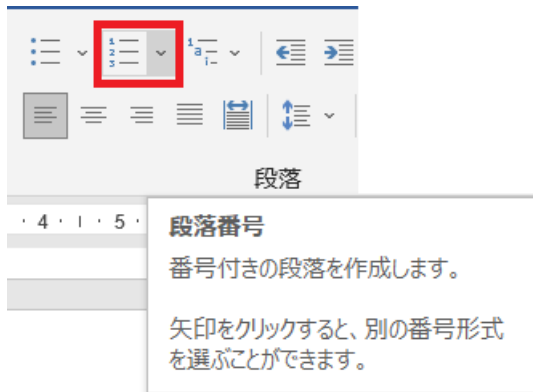


この行頭記号の多くは、Word 独自の特殊なフォントを使って表示されるため HTML では正しく表示されない場合があります。このため Word2HTML コンバータは、行頭記号を削除したうえで、HTML の順序なし箇条書きに変換します。HTML では行頭記号は CSS を使って設定してください。

なお、Word で箇条書きを指定したブロックは、見かけ上は HTML の順序なし箇条書きのように見えます。しかし、Word の内部では、各項目が先頭に記号が付いた段落として書式化されています。Word2HTML コンバータは、Word の編集時に「箇条書き」を設定した箇所を分析して、HTML の順序なし箇条書きに変換しています。段落の書式の指定方法によっては HTML の順序なし箇条書きに変換できない場合があります。この場合は、段落の書式の変更を試してみてください。

6.3.2 段落番号

Word のリボン「ホーム」の「段落番号」は、選択した番号形式で段落の行頭に自動番号付けする機能です。



段落番号を指定したブロックは、見かけ上は HTML の順序付き箇条書きのように見えます。

しかし、Word には番号付き箇条書きというスタイルはありません。Word の段落番号を設定した段落は、ひとつひとつの段落項目の先頭に番号のついた段落として保存されています。

Word2HTML コンバータは、Word 編集時に「番号付き段落」を設定した箇所を、HTML の順序付き箇条書きに変換するか、それとも番号付き段落に変換するかをプログラムで判定します。判定基準は次のとおりです。

- Word 文書中で段落番号を設定した段落がふたつ続いたときに順序付き箇条書きとします。
- Word 文書中に段落番号を設定した段落が単独で現れたときは、番号をその段落行頭の通常の文字に変換します。

この判定は必ずしもうまくいかないことがあるため、期待通りにならない場合は、Word 上で段落を編集してみてください。

6.4 図のレイアウト

Wordで図を配置するオプションは、行内配置と文字列の折り返しがあります。このレイアウトオプションは、図形を選択してマウスの右クリックで表示して選択します（次の図を参照）。



6.4.1 行内配置

行内配置では図を文字と文字の間にあたかもひとつの図形文字のように配置し、前後の文字と一緒に位置が移動します。行内配置の図はこのように (😊) HTML では文字の間に配置されます。

HTML に変換した結果、img タグに class="inline" の属性が設定されます。

6.4.2 文字列の折り返し

文字列の折り返しを指定した図は、Word の編集画面で図を選択するとアンカーマーク表示されます。

- A. 見出しや段落にアンカーマークがついた図は、見出しや段落の終了タグ直後に出力され、また、img タグに class="block" の属性が設定されます。

次の例では、図のアンカーマークが見出しの先頭についています。



これを HTML に変換すると次のように、見出しリンクの終了タグと次の段落の開始タグの間に、img タグを出力します。

```
<section>
<h3>1.1.1 変換結果を表示するアプリケーションの指定</h3>

<p>「HTML へ変換」が終了すると、Windows で拡張子 html に対応付けられているアプリケーションで HTML ファイルを表示します。</p>
```

次の例では、図のアンカーマークが段落の先頭についています。



これを HTML に変換すると次のように、段落の終了タグの直後に、img タグを出力します。

```
<p>文字列の折り返し配置を指定した図は HTML ではそのアンカーがある段落の終了タグの後ろに出力されます。 </p>

```


この例では Word の画面上では段落のテキストが図の後ろにあるにも関わらず、HTML に変換すると段落の後ろに img タグが出力されます。Word は紙の上に画像を配置するため、画像が 1 ページにうまく入りきらないとき、画像が次のページに配置されることがあります。このようなときも HTML ファイルに変換したときには、アンカーマークが付いた段落の後ろに img タグが置かれます。

B. 箇条書きの項目にアンカーマークのついた図は、箇条書き項目の終了タグの直前に img タグが出力されます。

次の例では、図のアンカーマークが箇条書きの最初の項目の先頭についています。

↑

① 編集中の docx 文書が更新されているとき、変換開始前に、変更された文書の保存を促すダイアログを表示します。↑



② HTML 保存先フォルダが設定されていないとき、保存先フォルダを選択するダイアログを表示します。表示されるダイアログは「4.5 変換先フォルダを変更」と同じ内容なので、そちらを参照してください。↑

これを HTML に変換すると次のように、最初の箇条書き項目の終了タグの**直前**に、img タグを出力します。(箇条書きの項目の終了タグの後ろと次の箇条書きの項目の開始タグの間に img タグを出すと HTML の文法エラーになるためです。)

```
<ol>
<li>編集中の docx 文書が更新されているとき、変換開始前に、変更された文書の保存を促すダイアログを表示します。
</li>
<li>HTML 保存先フォルダが設定されていないとき、保存先フォルダを選択するダイアログを表示します。表示されるダイアログは「<a href="_Ref85635186">4.5</a>変換先フォルダを変更」と同じ内容
```

```
なので、そちらを参照してください。</li>  
</ol>
```

6.5 Word の空行と空き

「HTML on Word」のデフォルト変換では Word 文書の中の空行（行頭の改行のみの行）、改頁は無視します。また、Word は紙への印刷を想定しているため、図や表がページ中に入りきらないと、次のページに送られて、大きな空きができます。HTML に変換するときこうした空きは無視されます。

Word の編集画面上でのレイアウト上できる、空きや空行については気にしないで編集してください。

6.6 図形・画像のグループ化

Word 上では、紙の上に図形や画像を配置していくことができます。もし、これらの図形や画像を HTML の中でひとつにまとめたいときは、Word 上でグループ化してください。

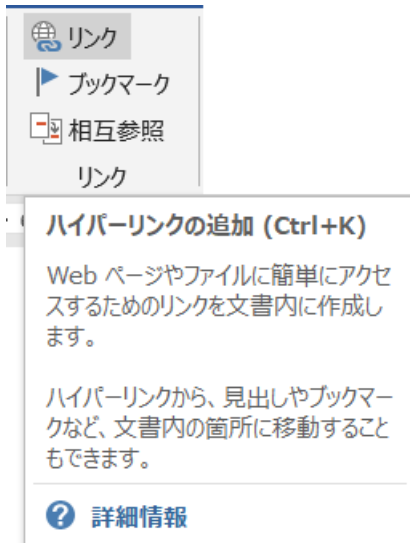
複数の図を編集中の Word 文書の画面上で同じ位置に配置しただけでは、HTML に変換したときに図がバラバラになってしまいます。

6.7 参照リンクの設定方法

Wordで参照リンクを設定する方法には、リボン「挿入」の「リンク」と「相互参照」があります。

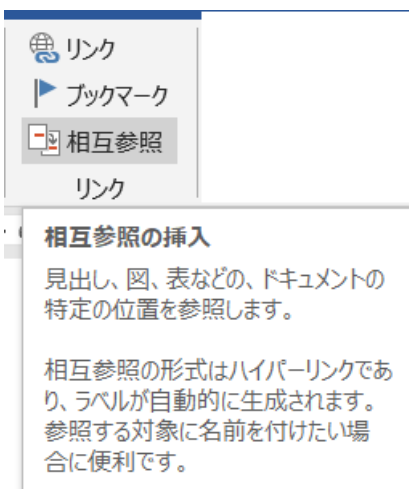
6.7.1 リンク

Wordのリボン「挿入」タブの「リンク」では外部のURLやWord内部へのリンクを設定できます。



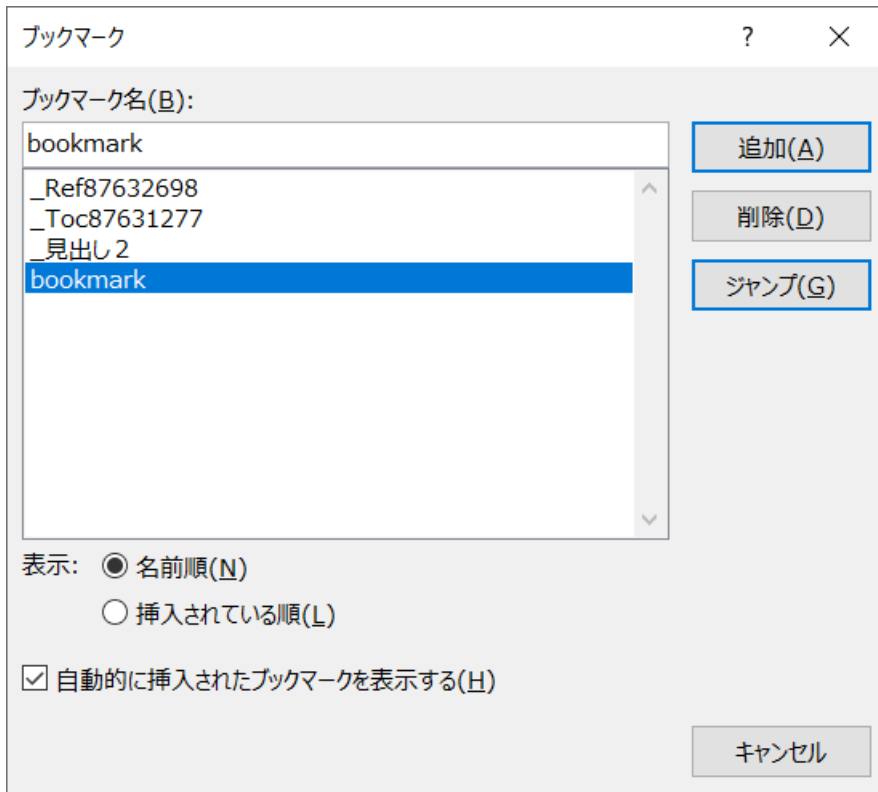
6.7.2 相互参照

Wordのリボン「挿入」タブの「相互参照」ではWord内部で見出し、図、表、番号付き段落へのリンクを設定できます。



6.7.3 リンクの参照先

リンクの参照先は外部 URL や文書内部のブックマークです。ブックマークは Word のリボン「挿入」タブのブックマークで追加、削除などの編集ができます。次にブックマークの例を示します。



上のダイアログには4つのブックマークが表示されており、ブックマークの種類は次のようになっています。

- 1) Word で自動生成の目次を作成した目次の項目は「_Toc」から始まるブックマーク
- 2) 相互参照の参照先に「_Ref」から始まるブックマーク
- 3) 文書内部リンクの参照先に「_見出し2」
- 4) ブックマークダイアログで追加したブックマーク「bookmark」

HTML に変換するとブックマークはに変換されます。

【例】 ここに here という名前のブックマークが設定されています。

6.8 表

Word の表機能で作成した表を HTML の表タグに変換します。表のセルに指定されている、背景色や枠線の太さ・色・スタイル（一部のスタイルのみ対応）、表の幅は、変換オプションの「-tablestyle」パラメータを指定することで、各 HTML タグの style 属性として出力できます。

あるいは表の各タグに対して CSS のスタイルで装飾できます。

また、表のスタイルに名前を付けて適用することで、表の名前を<table>タグの class 属性の値として出力できますので、表の種類によってそれぞれの CSS のスタイルで装飾することもできます。

ヒント

表（table）関連のタグに対して装飾を指定する場合は、読み込む CSS ファイルに該当のタグのスタイルを定義してください。

6.9 文字の修飾・フォントの扱い

Word のリボン「ホーム」のフォントグループで設定できる機能のうち、太字、上付き、下付きについては、それぞれ、<sup>、<sub>という HTML のタグに変換されます。

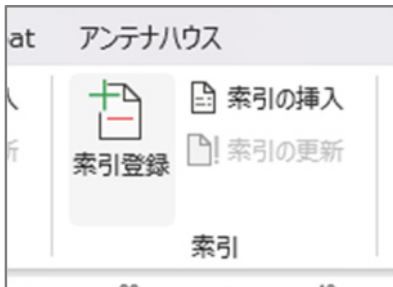
イタリック（斜体）、アンダーライン（下線）、消し線、文字の色については、変換オプションの各パラメータを指定することで出力できます。（「3.2 変換オプション」を参照）

※Web ブラウザで表示するフォントに斜体がない場合は、斜体で表示されません。

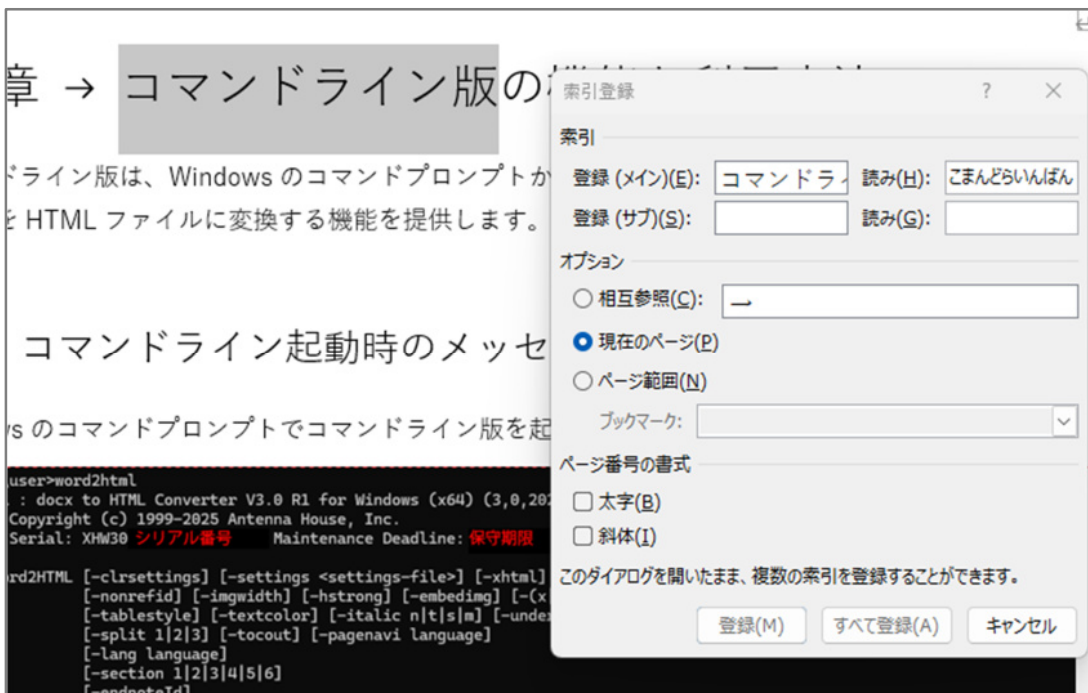
それ以外のフォント名、文字の大きさは変換時に無視します。

6.10 索引の作成

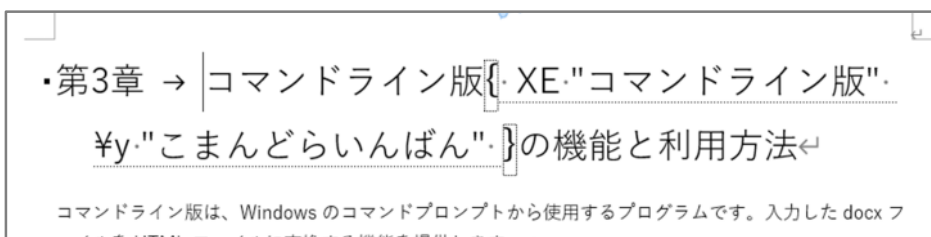
Wordのリボン「参考資料」タブの「索引」では索引テキストの登録と、索引の作成をすることができます。



索引に登録したいテキストを選択して、上記「索引登録」ボタンをクリックします。

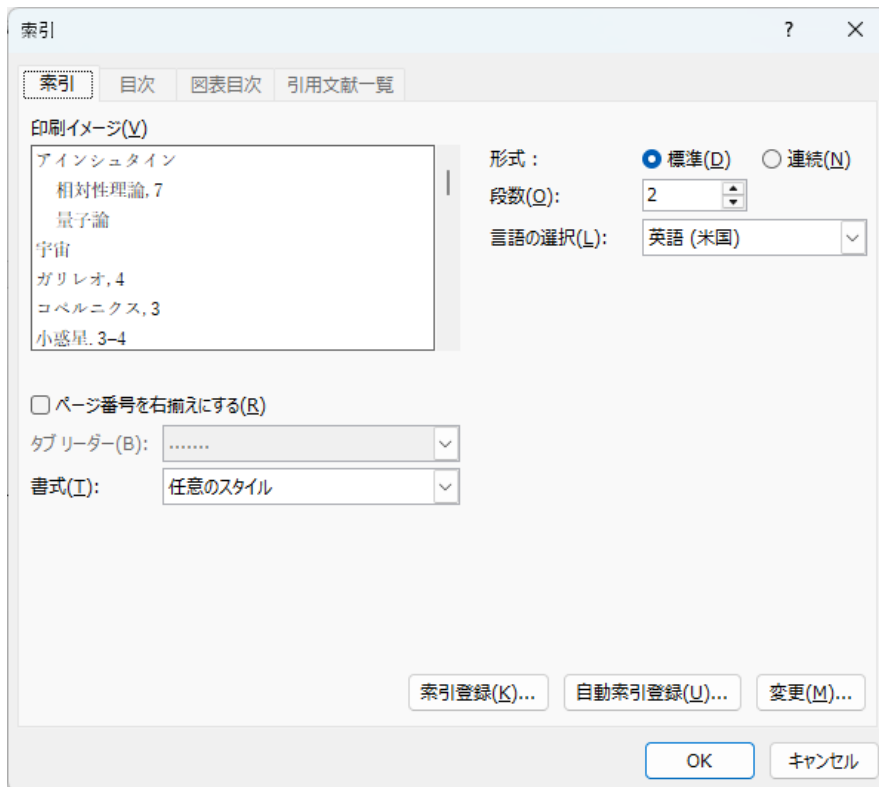


索引登録画面で必要に応じて編集し、「登録」ボタンをクリックします。

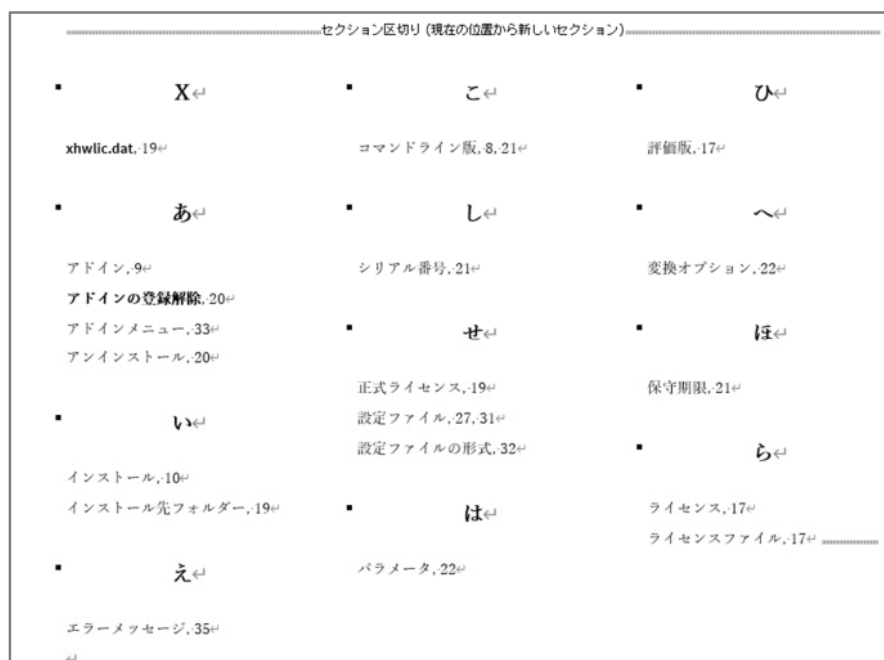


登録した索引のテキスト箇所を表示した状態

索引を作成したい箇所にカーソルを合わせ「索引の挿入」ボタンをクリックします。



「索引」画面でお好きなレイアウトを設定して「OK」ボタンをクリックすると、Wordによって自動で索引の一覧が作成されます。



索引ができましたので、この状態で本製品で HTML に変換すると、索引の参照先をハイパーリンクに変換します。



※索引のハイパーリンクは標準で出力します。パラメータの指定は不要です。

※索引登録で登録した XE（インデックス エントリ）フィールドを手動で変更したり、フィールド機能で挿入した XE フィールド、INDEX フィールドの場合、Word 上の表示と同じ出力にならなかったり、正常に出力できない場合があります。

※「索引登録」画面の「オプション」項目と「ページ番号の書式」項目で設定した内容は、出力する HTML の索引には反映されません。（ページ番号は出力されません）

索引

_Ref, 86
_Toc, 86

A

alt 属性, 54
aside, 62, 65
author, 49

B

behind, 53
block, 53
body, 50
br, 26, 50

C

Cannot Open File, 35
center, 61
-citation, 23
Citation, 23
-clrsettings, 22, 30
-css, 26
CSS, 26, 34, 44
-customSep, 26, 64

D

def-settings.xml, 27, 28
-defstyle, 26, 61
del, 58
description, 49

distribute, 61
doc, 8
docx ファイル, 48
doc 形式ファイル, 48

E

em, 58
-embedding, 23
EMF, 52
-emptyP, 23
-encoding, 24
end, 61
-endl, 22
-endnoteld, 25, 63

F

File Location Unsupported.
Please ensure the file is
stored locally, 47
-fileimages, 26
-footnote, 25, 62, 65
front, 53

G

GIF, 52

H

h1, 50, 76
href, 60
-hstrong, 23
HTML on Word, 2
HTML へ変換, 38

HTML 仕様, 48
HTML 文法, 22

I

i, 58
id の値, 60
-imgwidth, 23
inc-toc.html, 24, 69
index-list, 70
index-list-area, 70
index-mark.svg, 35, 47, 70
inline, 53
Input file not found, 35
input-file, 22
It is not the file format to be
converted, 35
-italic, 23

J

javascript, 27
JavaScript, 49
JPEG, 52
-js, 27
justify, 61

K

keywords, 49

L

-lang, 25
lang 属性, 25
line-through, 58

-linethrough, 24

M

Maintenance Deadline, 21

MathML, 55

N

Next リンク, 72

-nonrefid, 23

O

Office Open XML, 55

-omath, 23

-outputbr, 26

output-file, 22

P

p, 50

-pagenavi, 25, 72, 73

pagenavi-next, 73

pagenavi-prev, 73

pagenavi-wrap, 73

path, 35

Please enter alt text, 54

PNG, 52

Prev リンク, 72

-pstyle, 23

R

Roaming フォルダー, 28

rp, 59

rt, 59

ruby, 59

S

-savedefault, 27

-savesettings, 27, 32

section, 25

-section, 25

-settings, 22

-spaceindent, 26

-split, 24, 69, 71

square, 53

start, 61

strong, 58

sub, 58

sup, 58

SVG, 52

SVG file for index link not found,
35, 47

T

table, 55

-tablestyle, 23, 87

target, 60

text-align:center, 61

text-align:end, 61

text-align:justify, 61

-textcolor, 23

text-justify:auto;, 61

thead, 55

through, 53

-throughimg, 23

tight, 53

-tocout, 24, 69

top-bottom, 53

Trial Deadline, 21

U

u, 58

underline, 58

-underline, 24

V

viewport, 22

-viewport, 22

W

Web ページのコンテンツ, 74

WMF, 52

Word2HTML は、内部コマンドま
たは外部コマンド、操作可能な
プログラムまたはバッチファイ
ルとして認識されていませ
ん。 , 35

Word 編集ガイドライン, 74

X

-xhtml, 22

XHTML1.0, 48

xhwlic.dat, 19

-xmath, 23

XML 文法, 22

あ

アウトライン番号, 51

アウトラインレベル, 51, 77

新しいウィンドウ, 60

アドイン, 9

アドイン登録, 36

アドイン登録解除, 36

アドインの登録解除, 20

アドインメニュー, 34

アプリケーションの指定, 39

アンインストール, 20

アンダーライン, 58

アンテナハウスタブ, 37

い

イタリック, 58

インストール, 10

インストールオプション, 17

インストール先フォルダー, 19

インライン要素, 58

う

上付き, 58

え

エラーメッセージ, 35, 47

お

お問い合わせ先, 3

同じフレーム, 60

親フレーム, 60

か

改行, 22, 45

改段, 50

外部 URL, 60

改頁, 50

概要, 8

囲い文字, 59

囲み線, 59

箇条書き, 51, 79

画像の形式, 52

環境変数, 35

き

脚注, 25, 62

境界線, 26

強制改行, 50

行頭記号, 79

行頭文字ライブラリ, 79

行内, 53

行内配置, 81

均等割り付け, 61

く

空行, 84

グループ化, 84

け

蛍光ペンの色, 58

言語, 25

言語判定, 49

こ

コマンドライン版, 8, 21

コメント, 49

コンテンツ, 74

コンバータ, 8

さ

サーバー, 8

最初の列, 56

索引, 70

索引の作成, 88

作成者, 49

参照マーク, 62, 65

参照リンク, 85

し

字下げ, 26

下付き, 58

自動番号付け, 80

出力される HTML 要素, 73

順序付きリスト, 51

シリアル番号, 21

す

図, 52

数式, 55

スタイル分離原則, 74

図の出力フォルダー, 52

図の配置, 52

図の配置設定, 53

図のレイアウト, 81

せ

正式ライセンス, 19

セクション, 50

設定ファイル, 22, 28, 32

設定ファイルの形式, 33

セルの配置, 57

線画図形, 52

そ

相互参照, 60, 85

た

ターゲット フレーム, 60

代替テキスト, 54

タイトル, 48

タイトル行の繰り返し, 55

段落, 50, 77

段落スタイル名, 52

段落テキストの揃え, 61

段落番号, 51, 79

ち

中央揃え, 61

つ

次へ リンク, 72

て

テキストボックス, 61
デフォルトスタイル, 49
デフォルト設定ファイル, 28

と

取り消し線, 58

は

ハイライト, 58
パラメータ, 22

ひ

左揃え, 61
表, 55, 87
評価版, 18
表記法, 3
表スタイルのオプション, 55
表題, 77
表題スタイル, 50
表の見出し, 55

ふ

フォルダー名, 26

フォント, 59
フォントグループ, 58
フォントサイズ, 59
ブックマーク, 86
ブラウザ, 39
ブロックタグで改行, 45
ブロック要素, 50
分割, 24
分割出力, 69, 71
分割ポイント, 71
文末脚注, 65

へ

ページ移動リンク, 71, 72
ページ全体, 60
ヘルプ, 46
変換エンジン, 8
変換オプション, 22
変換先フォルダー, 43
変換仕様, 48
変換できませんでした, 47
変換元文書, 48

ほ

ボード, 58
保守期限, 21
本文, 50

ま

前へ リンク, 72

み

右揃え, 61
見出しスタイル, 51, 76
見出しリンクタグ, 76

め

メタ情報, 48

も

目次, 24
目次出力, 68
文字種, 59
文字の網掛け, 59
文字の色, 59
文字の効果, 58
文字の修飾, 87
文字列の折り返し, 53, 54, 82

ら

ライセンス, 18
ライセンスファイル, 18

り

両端揃え, 61
リンク, 60, 85
リンクの参照先, 86

る

ルート・ヘッダ・メタ情報, 48
ルビ, 59

奥付け

「HTML on Word」 ユーザーズマニュアル

製品バージョン：3.0.0

発行日：初版 2025年3月

発行元：東京都中央区東日本橋2丁目1番6号 アンテナハウス株式会社

Copyright ©2021-2025 Antenna House, Inc.

本製品の Web マニュアルは、Microsoft Word で編集して、『HTML on Word』で HTML に変換しました。

PDF のマニュアルは、同じ Word 文書から『瞬簡 PDF 統合版』に付属する『Antenna House PDF Driver』で PDF 出力しました。